

東京工科大学報 68



MEDIA HALL



東京工科大学報 68

Contents

P 0 4	学長メッセージ	シンガポールの大学・ポリテクニクの視察
P 0 6	KOUKADAI TOPICS	新入生の「コミュニケーションツール」利用実態調査を発表 クラウドサービス「paiza (パイザ)」を演習に導入 プレスリリース 応用生物学部 吉田亘講師 主要日誌 学校法人片柳学園新理事長就任のお知らせ [高大連携] 学校法人矢野学園と教育連携協定を締結 eスポーツサークルが日本代表として世界大会に出場！ KOUKADAI SNS
P 1 0	学部・学環・研究科便り	応用生物学部 コンピュータサイエンス学部 メディア学部 工学部 デザイン学部 医療保健学部 教養学環 バイオ・情報メディア研究科
P 1 8	Campus Scenes	FOODS FUU (蒲田キャンパス)
P 2 0	学生・教員の受賞と活動	応用生物学部 コンピュータサイエンス学部 メディア学部 工学部 デザイン学部 医療保健学部 教養学環 バイオ・情報メディア研究科 片柳研究所
P 2 6	平成30年度入学式	平成30年度入学者数 出身高校の所在地県別入学者数 学長式辞
P 2 8	大学事務局便	キャリアサポートセンターからのお知らせ 学内合同企業セミナーを開催 八王子近隣地域学内合同企業説明会を開催 その他の主な就職関連行事 (八王子キャンパス) 保護者説明会で全体就職説明会を開催 (蒲田キャンパス) 平成30年度後期学内行事予定 平成30年度学園祭日程
P 3 0	KOUKADAI Information	人事 (採用、任命、昇格、定年、組織改廃、退職) 動物実験・遺伝子組換え実験実施状況 外部研究費関連 (科研費・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金・その他) 学事 平成29年度学部卒業生・大学院修了者数 平成29年度就職状況 博士学位授与 平成31年度入学者選抜日程表 予算・決算
P 3 6	編集後記	



表紙

好天の青空に映える蒲田キャンパスのシンボルとなる3号館を背景に、新しくできたFOODS FUU2と片柳学園長が制作されたモニュメント。



「シンガポールの大学・ポリテクニクの視察」



学長
軽部 征夫

昨年11月30日から12月3日までの4泊5日のスケジュールで、シンガポールの大学及びポリテクニクを訪問・調査してきました。訪問はシンガポール国立大学を初めとして、約半日で1校というペースでの調査・見学となったため、施設・設備や教育現場、研究内容の詳細にまでは調査が及ばなかったのですが、各大学のアクティビティの概要は知ることができました。

シンガポール国立大学は現在、アジアトップの実績を誇っています。私達が訪れたのは生物医用工学科で、同学科長のチョンホ教授と副学科長のリ教授が説明してくれました。説明の中で私が特に驚いたのは、ストレート卒業率が95%以上であるということでした。何か特別な工夫をしているのかという質問には答えてもらえなかったのですが、学生が優秀で勤勉なことが、高いストレート卒業率を維持できている要因ではないかと思われる。歴史もあり、エリート校でもあるため、トップクラスの学生しか入学できないシンガポール国立大学は、アメリカのSAT(大学進学適性試験)やACT(カレッジテストプログラム)のような標準テストの成績で入学検定を行っているようです。もちろん、学部によって入学に必要な成績は異なるようで、工学部には

高い成績でないと入学が許可されないとのことでした。また、シンガポール国立大学を卒業すると就職先も一流企業となり、待遇も良いという話です。

少し専門的な話になりますが、この生物医用工学科では細胞内などのミクロな環境における液体の物性に関する研究を行っているそうです。このような特殊な空間における液体の粘性挙動などを解析することによって、病気の治療や診断に応用することを考えているとのことでした。

続いて、南洋理工大学を11月30日の午後に視察しました。大学管理棟の1階で、同大学副学長のエル教授にお出迎えていただき、エントランスに設置されている全キャンパスの模型を用いて大学全体の説明を受けました。大学名からも理工系の大学という印象が強かったのですが、ビジネススクール、人文科学・芸術・社会科学部や医学部まであるのには驚きました。説明後は会議室に移動し、電気電子工学部副学部長のフェン教授、社会人生涯教育カレッジ副学部長のベン教授、理学部の千葉俊介主管教授の陪席のもと、副学長からご説明いただきました。世界の大学ランキングを意識しており、特にライバルのシンガポール国立大学に追いつくための努力をしているそう

で、シンガポール国立大学と同様に、全ての授業が英語で行われ、世界中から優秀な教員を集めているそうです。教員の70%は外国人ですが、女性教員の獲得には苦労しているとのことでした。私達が用意した質問にはほぼ答えていただけこともあり、素晴らしい討論になりました。討論の最後には副学長のエル教授から、南洋理工大学と東京工科大学との間で、今後提携について検討しませんかというお言葉をいただきました。

討論後には所要時間2時間のキャンパス見学があり、人文科学・芸術・社会科学棟(芝生で屋根が覆われているエコな構造の建築物)や、2年前に建設されたシンボリックな建物(ラーニング・コモンズや売店)を見学させていただきました。ビジネススクールでは起業家の育成が積極的に行われており、授業で取り入れているケーススタディの具体例や、起業した卒業生のビジネスの成功事例などを説明してくれました。また、多くの産学連携事業も行っているとのことでした。

我々が南洋理工大学を視察している同時刻、今回の調査に同行していた本学の法人が設置する専門学校の先生方はナンヤンポリテクを視察していました。私はWebでの情報しか持っていなかった



のですが、まさに日本工学院専門学校と同様、総合的にプロフェッショナル人材の育成を行っていました。そもそもポリテクニクとは、まだ日本では馴染みのない言葉ですが、学問（学術）を教える大学に対し、実学（職業教育）を中心に教育課程が編成されているわが国の高等専門学校に相当するもので、視察したナンヤンポリテクニクは特に設備が優れており、学生の実習用に10台も3Dプリンターが用意されているとのことでした。

12月1日、最後の訪問先であるシンガポールマネジメント大学を視察しました。この大学はビジネス系の大学ですが、私達が視察した学部は情報システム学部で、同大学唯一の理工系の学部でした。この学部の学部長を務めているハワ教授がこの学部で行われている教育と研究を紹介してくれました。なお、本学園の千葉理事長が関心を寄せていたこの大学の別の組織のアカデミーで行われている社会人教育について質問をしたところ、受講者は政府から1人につき5,000SGD（約40万円）の支給が受けられるプログ



ラムであり、過去には約8,000人がこれに参加して成果を上げているとのことでした。ICTを授業に積極的に採用していると同時に、こういった新しい教育ツールや授業コンテンツの作製を支援するセンターを併せ持っているそうです。

以上の3大学とポリテクニクを視察して強く感じたことは、いずれの大学も世界大学ランキングを強く意識して教員組織を編成し、研究を行っているということです。

シンガポール共和国は面積719.2k㎡で、東京23区とほぼ同じ面積であり、人口は561万人で、国際社会で生き残るためには産業の振興が不可欠です。そのため、金融など新しい産業の振興と外国企業の誘致に力を入れており、また、地政学的観点から述べると、シンガポールはアジアと中東、ヨーロッパの間に位置していることから、港湾や空港のハブ化を積極的に進めています。その上、民族は多様であり、中国系、インド系、マレーシア系、インドネシア系などの人材が豊富に集まっているため、使用言語も複雑ですが、英語が共通語になっているために欧米とも容易に連携することができます。その証拠に、これら3大学と共同研究をしている企業は米国、EU、中国、韓国、そして日本と極めて多様なのです。まさにダイバーシティ国家と言えるのではないのでしょうか。このダイバーシティ国家において、豊富な人材を最大限に活用した産業を振興させるためには、教育が極めて重要と考えられています。そこで政府は、大学やポリテクニクにおける人材育成に戦略的に関わっています。その結果として、世界大学ランキングを上げて優秀な教員や学生を世界中から集める戦略を進めていることとなります。ただ一つ気になるのは、留学生の割合を15%以下に抑えるという政策です。シンガポールの学生を優先させるためであることは理解できますが、ダイバーシティ国家としての理念にそぐわないのではないかと個人的には感じました。

さて、今回のシンガポールの大学及び

ポリテクニクの視察では多くのことを学ぶことができました。ICTを活用した先進教育に触れ、これをもっと積極的に導入するためには教員の再教育が重要であると強く感じました。視察先では3大学ともそのような組織を独自に持っており、例えば南洋理工大学では、14名のスタッフを有する教員教育センターがあり、新任教員だけでなく、一般教員やシニア教員の指導もしているようです。本学園においても専門学校や大学で、その教育科目や技術、スキルが急速に進展していることから、教員側がこれらの専門知識、技術や教授法について行けないという現象が起きています。以前、アメリカを視察した際にも、コロンビア大学とミネソタ大学で教授法研究センターを見学しました。今回のシンガポールの大学視察では時間の関係で見学することはできなかったのですが、本学園でもこのような教員や職員の教育センターの設立を検討する必要があると強く感じました。

最終日にはメンバー全員で視察の結果を再確認し合い、今回の視察の成果について大いに話が盛り上がりました。シンガポールの大学及びポリテクニク視察の結論として言えるのは、ダイバーシティが極めて重要であり、グローバル化が進んだシンガポールの大学に負けないためにも、専門学校と大学をさらに改革する必要があるとメンバー全員が感じました。



学長 軽部 征夫

KOUKADAI TOPICS

東京工科大学の最新トピックスを紹介。



新入生の「コミュニケーションツール」利用実態調査を発表

本学では、2018年度の新入生1,735名を対象に、コミュニケーションツールの利用状況などに関するアンケート調査を実施いたしました（調査日：2018年4月5日・6日）。この調査は、2014年から実施しており、今回で5回目となります。

【回答者属性】		2018年 (N=1735)	2017年 (N=1730)	2016年 (N=1695)	2015年 (N=1269)	2014年 (N=1277)
学部	工学部	16.8%	14.4%	14.4%	25.9%	—
	メディア学部	17.2%	19.5%	19.5%	27.3%	37.0%
	コンピュータサイエンス学部	16.8%	16.3%	16.3%	25.2%	42.6%
	応用生物学部	14.9%	14.3%	14.3%	21.3%	20.4%
	デザイン学部	11.5%	11.9%	11.9%	—	—
医療保健学部	22.8%	23.7%	23.7%	—	—	
性別	男子	63.7%	65.5%	65.5%	77.6%	76.6%
	女子	36.3%	34.5%	34.5%	22.3%	23.3%
	無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%
年齢	18歳	87.3%	86.8%	86.8%	85.2%	85.8%
	19歳	6.8%	9.9%	9.9%	11.3%	9.3%
出身高校 エリア	1都3県(東京・神奈川・千葉・埼玉)	69.7%	65.5%	65.5%	69.1%	66.0%
	その他国内	27.9%	33.1%	33.1%	28.8%	32.1%

※工学部は2015年度新設。デザイン学部及び医療保健学部は、2016年より対象に追加

【調査結果概略】

LINE、twitterの2強変わらず。Instagramは男女共に2桁増

SNS利用率では、[LINE]が3年連続でほぼ全員、[twitter]が同8割以上を維持しており、主流として定着したようです。[Instagram]は、女子で前年比13.6ポイント増70.0%、男子で同12.3ポイント増33.2%、全体でも4年前の約3倍となる46.6%となり、拡大傾向が続いています。[SNOW]は女子が男子の約4倍となる6割弱(57.0%)が利用。[Facebook]は同4.4ポイント減11.8%で、減少傾向が続いています。

連絡手段はSNSに集約進む？メール利用は4年で3分の1以下に

友人との連絡手段は、[LINE]が3年連続でほぼ全員、[twitter]のメッセージが同4割強となり、利用率と同様に定着化の傾向がみられます。一方、「携帯電話のメール」は前年比6.2ポイント減20.6%で4年前の3分の1以下、「ショートメール」は前年比1.3ポイント減15.3%で、引き続き減少傾向。SNSへの集約が進んでいる傾向がみられます。

新入生の4割弱が入学前にSNSなどで連絡

入学前に新入生同士でSNSなどで連絡を取り合ったことが「ある」のは全体の4割弱(37.2%)。女子(45.4%)が男子(32.5%)を上回り、学部別ではデザイン学部(47.7%)が最も高く工学部(26.4%)が最も低くなりました。

ニュースの情報源はテレビが8割、twitterとLINEも半数以上

世の中の動きについて情報を得ているメディアは、「テレビ」が最も高く82.4%。次いで[twitter]が57.2%、[LINE]が55.0%と前回に続き半数以上となりました。女子の利用率が7割となった[Instagram]は、情報源としても7.7ポイント増の2割弱(18.9%)が利用しています。また、「最も信頼できるメディア」では、「テレビ」(51.9%)に次いで「新聞」(16.3%)となり、SNSやネットメディアを上回りました。

iPhoneの利用率は4年間で1.5倍近くに

所有している携帯電話の種類では、「iPhone」(72.8%)が4年前(50.1%)の1.45倍となり、「その他のスマートフォン」(25.1%)などとの差が拡大しています。また、女子では初めて8割超(81.1%)となりました。

クラウドサービス「paiza (パイザ)」を演習に導入

本学工学部では、プログラミング学習および就職サービス「paiza (パイザ)」^{注1}を手がけるギノ株式会社(東京都港区)と連携し、学外学修や就活にも活用可能なクラウドサービスによるプログラミング演習を開始いたしました。



この取り組みは、工学部電気電子工学科(約100名)の2年次前期の必修科目「プログラミング基礎」(担当教員：天野直紀電気電子工学科准教授)において今年度から導入したもので、オンライン学修のみならず成果を就活にも活用できるプログラミング実習の試みは、国内の大学では極めて珍しい事例となります。

【導入のねらい】

IoTの急速な普及などを背景に、電気電子工学をはじめ幅広い工学分野でプログラミングスキルの重要性が高まっています。同演習では、同社のクラウド型プログラミング環境「paiza.IO」を利用す

ることで、従来のPC内に設定する方法に比べ初心者でも容易に学習環境を構築できるほか、これに連動したeラーニング教材「paizaラーニング」を活用し、自宅での予習・復習など授業時間外での学修サポートも行っています。また、同社の学生向け就活支援サービス「paiza新卒」と連動することで、学修の成果としてプログラミングコードなどをそのまま就職活動に活用でき、学生のモチベーション向上も期待されます。

【成果と今後の展望】

2018年6月時点において、従来方式に比べ一定の学修効果の向上(到達度確認テストで1~2割程度の成績向上)が確認できました。今年度前期の成果をまとめ、2018年11月に開催される「日本eラーニング学会」での発表を予定しているほか、学内他学部との共有なども検討してまいります。

(注1) 「paiza (パイザ)」

ギノが手がける、IT/Webエンジニアに特化した求職・学習サービス。「paiza転職」(<https://paiza.jp/career>)「paiza新卒」(<https://paiza.jp/student>)は、プログラミングコードを元に就職活動ができる国内最大級のサイトで、国内ITエンジニア全体の約40%にあたる16万人が登録。「paiza.IO」(<https://paiza.io>)はクラウド型プログラミング環境サービス。「paizaラーニング」(<https://paiza.jp/works>)はeラーニングコンテンツ。URL <https://paiza.jp>



吉田巨応用生物学部講師、軽部征夫学長らの研究グループは、ヒトゲノム配列中からグアニン四重鎖構造^{注1}を複数形成する領域（以下、グアニン四重鎖クラスター）を9651箇所同定し、このうち3766箇所が遺伝子の発現を制御している領域であることを解明しました。これらの遺伝子のうち95個が、がん遺伝子であり、それらは新たな抗がん剤開発のための標的になることが示唆されました。

本研究成果は、東京農工大学長澤和夫教授、同池袋一典教授、千葉大学飯田圭介助教、国立成育医療研究センター秦健一郎部長との共同研究によるもので、2018年2月15日に英国Nature Publishing Groupの科学誌『Scientific Reports』に掲載されました^{注2}。

ヒトゲノムDNAは、通常二重らせん構造を形成しますが、近年の研究で部分的に「四重鎖」と呼ばれる特殊な構造を形成し、遺伝子の発現制御に関連していることが明らかになっています。また、ヒトゲノム中にはグアニン四重鎖形成配列が約70万箇所存在することが報告されていますが、複数のグアニン四重鎖が協働して遺伝子発現を制御している報告はありませんでした。そこで、本研究では複数のグアニン四重鎖が協働して遺伝子発現制御を行う領域を実験的に同定することを目的としました。

そして、ヒトゲノムDNAにグアニン四重鎖に結合する化合物(7OTD)を加えると、「グアニン四重鎖クラスター」の領域のみ試験管内で複製されないことを発見しました。この複製されなかった領域を明らかにするため、次世代シーケンサー^{注3}を用いて、実際に同領域をすべて解析した結果、9651箇所の「グアニン四重鎖クラスター」を同定することに成功しました^{注1}。さらに、詳細な解析を行った結果、このうちの3766領域が遺伝子の発現を制御している領域であることが明らかになりました。つまり、これらの遺伝子は「グアニン四重鎖クラスター」によって、その機能が制御されていることが示唆されました。

本研究により、3766個の遺伝子の発現が「グアニン四重鎖クラスター」によって制御されていることが示唆され、そのうち95個が、がん遺伝子であることが明らかになりました。今後、これらを標的とした抗がん剤などの開発が期待されます。

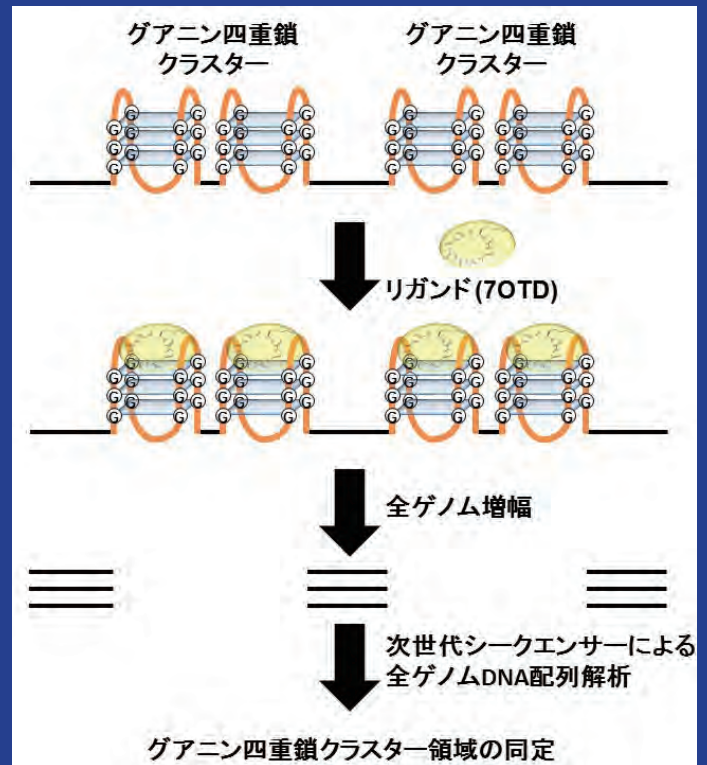


図1：ヒトゲノムDNA中のグアニン四重鎖クラスター同定方法

(注1)
グアニン四重鎖とは、4つのグアニンにより形成する平面構造が重なり合っている核酸の特殊構造です。グアニン四重鎖クラスター (G-quadruplex clusters) は、ヒトゲノムDNAにおいて、このグアニン四重鎖形成配列が複数個含まれる領域です。

(注2)
論文名
「Identification of G-quadruplex clusters by high-throughput sequencing of whole genome amplified products with G-quadruplex ligand」
Scientific Reports, (2018) 8, 3116, DOI: 10.1038/s41598-018-21514-7,
<https://www.nature.com/articles/s41598-018-21514-7>

(注3)
次世代シーケンサーとは、ヒトゲノムDNAの塩基配列を一度にすべて解析できる装置です。

主要日誌

2月	14日 (水)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「シンガポール視察報告」を開催
		デザイン学部が「3D Printing 2018 Additive Manufacturing Technology Exhibition」に出展
3月	8日 (木)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「革新的材料プロジェクトやCMCセンターの取組みについて」
	24日 (土)	メディア学部が「Anime Japan2018」に出展
4月	11日 (水)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「平成30年度大学運営方針」を開催
	13日 (金)	デザイン学部とメディア学部が、世界各国のアート、デザイン、メディア系の教育機関が加盟する国際連盟「Cumulus (グムルス)」に加盟。
	17日 (火)	食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設として登録される (医療保健学部臨床検査学科)
	26日 (木)	食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設として登録される (応用生物学部)
5月	9日 (水)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「海外研修、海外語学研修、コープ実習について」を開催
	14日 (月)	CMCセンターが「第3回関西高機能セラミックス展」に出展
6月	6日 (水)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「障害者差別解消法施行後に大学に求められる対応と課題について」を開催
	10日 (日)	NHK学生ロボコン2018の本戦に出場
	21日 (木)	[高大連携] 学校法人矢野学園 (八王子実践高等学校、八王子実践中学校) との連携協定を締結
	27日 (水)	応用生物学部が「国際バイオテクノロジー展 (BIO tech 2018)」に出展
	29日 (金)	[大学院工学研究科サステナブル工学専攻] を2019年4月新設
7月	4日 (水)	全学教職員会 (教職員のFD・SD活動) 「ハラスメント防止のために」を開催

学校法人片柳学園新理事長就任のお知らせ

学校法人片柳学園は、平成 30 年 4 月 1 日に理事会を開催し、前副理事長の千葉茂（ちば しげる）を新理事長として選任いたしました。

なお、前理事長・学校法人片柳学園創設者 片柳鴻（かたやなぎ こう）は、学園長として留任いたします。

学校法人片柳学園理事長

千葉 茂（ちば しげる）62 歳（昭和 30 年 12 月 14 日生）

略歴

昭和 58 年	学校法人日本電子工学院（現片柳学園）入職
平成 6 年	同副理事長
平成 15 年	日本工学院専門学校・日本工学院八王子専門学校学校長
平成 30 年	学校法人片柳学園理事長



【高大連携】学校法人矢野学園と教育連携協定を締結

学校法人片柳学園は、学校法人矢野学園（八王子実践高等学校、八王子実践中学校）と教育連携協定を締結し、6 月 21 日に八王子キャンパスにて締結式を行いました。

この協定は中学・高等学校との相互の教育に係る交流・連携を通じて、中学・高校生の視野を広げ、進路に対する意識や学習意欲を高めるとともに、大学の求める学生像及び教育内容への理解を深め、かつ双方の教育の活性化を図ることを目的としています。本学の授業科目や公開講座への聴講生としての受け入れなどを始め、様々な形で情報交換等をし、交流をしてまいります。

今後も東京工科大学はこのような高大接続の対象校をさらに拡大し、教育連携を推進していく予定です。



e スポーツサークルが日本代表として世界大会に出場！

世界で最も人気のある e スポーツゲーム「リーグ・オブ・レジェンド」の学生向け公式大会「League of Legends Japan Collegiate Championship 2018」(JCC 2018)の決勝戦が 7 月 15 日に開催され、本学の e スポーツサークル「A2Z」(顧問：三上浩司メディア学部教授)が無制限クラスで優勝し、日本代表として学生世界大会に出場することになりました。

e スポーツとは、「エレクトロニック・スポーツ」の略で、複数のプレイヤーで対戦されるゲームをスポーツ競技ととらえるもので、プロチームとしてスポンサー企業がついたチームに所属したり、最近では、アジアオリンピックで e スポーツがメダル種目として認定されるなど、世界中で注目されています。

今大会では無制限クラスに参加した 21 チームで競われ、優勝した本学サークルは、8 月 16 日～ 19 日に中国で開催される学生世界大会「LoL 国際学生大会」に参加します。

e スポーツサークル「A2Z」出場学生

菅原敬史（コンピュータサイエンス学部3年）
森田夏生（メディア学部4年）
田巻拓海（メディア学部2年）
加藤雅樹（工学部電気電子工学科2年）
ユウ ジェグン（メディア学部1年）



【画像引用】4Gamer.net より
<http://www.4gamer.net/games/073/G007372/20180717019/>

KOUKADAI SNS

東京工科大学では、研究・教育活動などについて、教員自らがブログを通して情報を発信しています。また、様々な SNS サービス (twitter、Facebook、Youtube、LINE) を通じて、教員・学生の受賞、学内活動等、本学の魅力を発信しています。興味のあるものをぜひご覧ください。



twitter



LINE



facebook



instagram



「食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設として登録される」

応用生物学部は、このたび食品衛生管理者及び食品衛生監視員の養成施設として登録されました。

食品衛生法第 48 条の規定により、「製造又は加工の過程において特に衛生上の考慮を必要とする食品又は添加物であって、食品衛生法施行令で定めるものの製造又は加工を行う営業者は、その製造又は加工を衛生的に管理させるため、その施設ごとに、専任の食品衛生管理者を置かなければならないこと」となっています。

この管理者として必要な国家資格が「食品衛生管理者」です。食品衛生管理者の資格を取得するためには、都道府県知事の登録

を受けた食品衛生管理者の養成施設において、所定の課程を修了しなければなりません。

2018 年度以降に 1 年次に入学し、先端食品コースで必要な科目を履修して卒業した学生は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格を取得できるようになります。

※2019年度以降に2年次に編入学し、先端食品コースで必要な科目を履修して卒業した学生も食品衛生管理者および食品衛生監視員の資格を取得できるようになりますが、2020年度以降に3年次に編入する場合は、先端食品コースが選択できません。

「応用生物学部の資格取得支援プログラム」

応用生物学部では、2017 年度より学生の持つ専門知識や技術を証明し、就職活動や実社会で役に立つ様々な資格の取得を支援する講座を開講しています。

現在開講しているのは、①色彩検定 2 級、②フードアナリスト 4 級、③食品衛生責任者、④中級バイオ技術者、⑤危険物取扱者乙 4 類の 5 種類の講座です。大学での講義とは別に、対策講座専門の外部講師が、取得をサポートする実践的講座を行います。

これらの対策講座は 1 日で終了するものから、週 1 回から数ヶ月にかけて行うものなど様々なものがあります。さらに参加費の一部または全学を大学が負担することで、学生への負担を軽減しています。

これらの取り組みによって、本学部の学生の多くが無事に資格を取得することができました。

資格名	対象学年	合格者
色彩検定 2 級	1 ~ 3 年生	20 名
フードアナリスト 4 級	3 年生	66 名
食品衛生責任者	3 年生	68 名
中級バイオ技術者	3 年生	33 名
危険物取扱者 乙 4 類	1 ~ 3 年生	5 名

今後も、学部では学生たちが自分の卒業後の進路を見据え、必要な資格を取得できるようにサポートしていきます。

「資格取得支援プログラムの講座」

色彩検定 2 級

色に関する知識・技能を理論的、系統的に学ぶことにより色彩の実践的活用能力を身につけることができます。本資格は、色に関する専門家として美容業界のメイクアップ、ファッションなどの商品企画やコンピュータグラフィクスなどの IT 業界への就職活動に活用できます。

フードアナリスト 4 級

食に関わる幅広い知識と教養を身につけた食の情報の専門家を認定する資格です。多くの大手食品会社で本資格の取得が要望されています。

食品衛生責任者

食品衛生では最も基本的な資格であり、飲食店では必ず一人、本資格の取得者をおくことが義務づけられています。

中級バイオ技術者

バイオ技術分野の基盤となる生化学や微生物学などの知識を持ち、指導者の指示のもとで遺伝子工学などのバイオ関連実験を適切かつ安全に実行しうる能力として認定されます。本資格は製薬会社や臨床検査会社などのバイオ技術関連企業への就職活動に活用できます。

危険物取扱者 乙 4 類

消防法に基づく危険物を取り扱ったり、その取扱いに立ち会ったりするために必要となる国家資格です。

「その他の資格」

公害防止管理者、環境計量士、臭気判定士など

環境に関わる資格には、多くの国家資格があります。本学部では、たとえば、公害防止管理者試験であれば、「水質保全学」など、資格に関連する講義を受講することができ、さらに、参考書籍などで学習を積むことにより、在学中にこれらの試験に合格する力を付けることが可能です。

バイオ技術者、生物分類技能検定など

生物に関わるこれらの資格は国家資格ではありませんが、この分野の知識を学習した証明になるものです。応用生物学部で開講する講義のうち、かなりの割合の講義がこれらの生物系の資格試験の出題範囲に含まれます。

危険物取扱者など

危険物取扱者は受験者数の多い理科系の一般的な資格です。化学系の講義や実験などで自然に身につく能力に加えて、関連法規を参考書などで学習することによって、こうした化学系の一般的な資格試験に合格する力を付けることができます。

TOEIC、英検、TOEFL など

TOEIC は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、企業・官公庁・学校等で利用されています。本学では、英語インテンシブの中で、TOEIC 向けの講座を開講し、さらに、TOEIC の試験を比較的安く学内で受けられる制度があります。また、卒業後に海外へ留学して高度な科学技術を身に付けようとする人も応援します。留学には、TOEFL 試験の受験が英語力の証明として必要になる場合があります。こうした外国語資格に挑戦することによって、莫大な情報が英語で流れる時代を生きる術を身につけてほしいと願っています。



「先端 ICT 分野を学修する新カリキュラムについて」

コンピュータサイエンス学部では、2019年4月の新入生から始まる新しいカリキュラムの編成に取り組んでいます。新しいカリキュラムの概要は、すでに学部のWEBサイトでご覧いただけますが、その特徴は、「コア講義科目の設置」と「演習・実験科目等による先端ICT分野の学修」です。

コア講義科目

現在、専門講義科目はコース別のカリキュラムになっていますが、これを大きく再編し、コースに共通の12のコア講義科目にします。これは、米国計算機学会 (Association for Computing Machinery) が提唱する、コンピュータサイエンス分野のカリキュラム案を基本に構成したものです。本学部卒業生の共通知識基盤を保証することを目的とし、12科目中10科目の合格を卒業要件とします。

専門演習・実験科目

講義+演習の科目、実験科目を大幅に拡充するとともに社会状況に応じて再編し、各教員の専門性を生かしながら、社会の要請にこたえた人材育成を目指していきます。これらの科目および、卒業課題のなかで特定の分野でまとまった学修をした学生には、卒業時にコースを認定します。

コースの考え方

現在は、コースのカリキュラムを学びつつ、コースとは関連の少ない実験、卒業課題に進む学生が少なくありません。これは2年進級時にコース選択をしたものの、途中で興味が変わったため、別のテーマに取り組もうとすることなので、自ら学ぼうとする意識を考えれば好ましいことかも知れませんが、コースのカリキュラムと卒業時に修得したものに乖離が生じます。そこで、4年間を通じて、学んだ分野に対してコースを認定することにしました。このコースの一つとして、AI(人工知能)コースを新設したことは、各方面から注目いただいています。

さて、これらの仕組みは、2019年に入学する新入生から適用されるものです。しかしながら、この新しいカリキュラムの一部は、現在の在生も履修できるようになっています。2年次、3年次の実験科目のなかに、昨年度までに新しいカリキュラムから先行して、IoT(モノのインターネット)やAIに関連した比較的少人数のテーマを設定してきました。今後は、セキュリティやデータサイエンスの分野でもテーマ設定をしていきたいと考えています。

また、AIコースは来年度以降の設置ですが、これまでもAIに関連した卒業論文を提出して卒業した学生は多数おり、現在も多数の学生がAI関連のテーマに取り組んでいます。このような実績をもとに、現在の教育・研究指導の延長として今回、コース設置を決めました。

最後に最近のAI関係の卒業研究からほんの一部を紹介させていただきます。

人工知能で鮭の雌雄判別 [図1]

このプロジェクトは、石畑コンピュータサイエンス学部教授と阿部応用生物学部助教による学部横断プロジェクトに石畑研究室の学部生が参加しています。

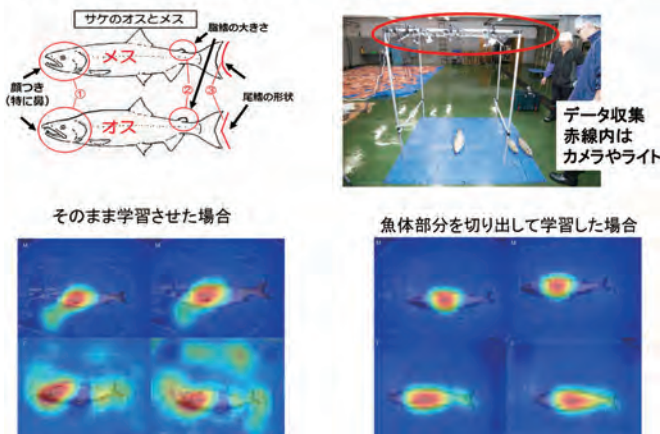
水揚げされた鮭は、オスと筋子を持ったメスで取り扱いが違います。この雌雄判別には熟練を要します。鮮度を保つため短時間で高精度の判別自動化にAIを応用しています。

写真を使った学習では、背景も含めて判別していたため、魚体部分のみで学習するように改善し、判別精度は97%以上です。

迷子発見システム [図2]

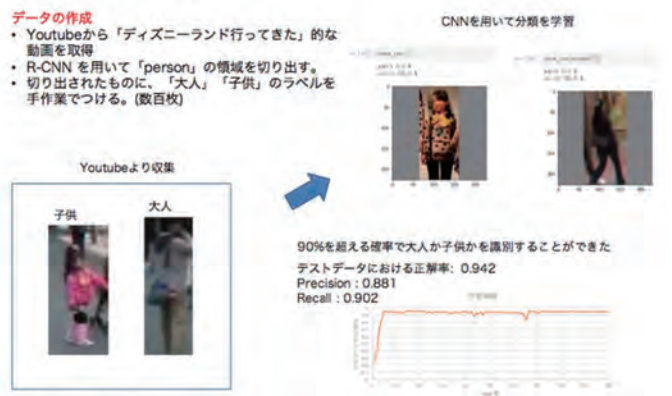
柴田コンピュータサイエンス学部講師と柴田研究室学生の卒業研究ですが、インターネットから収集した人物動画から、大人と子供をAIによって学習し判別します。子供が単独でいる状態を自動的に検知することを目指しています。

人工知能で鮭の雌雄判別 (応用生物学部と共同研究)



[図1] 人工知能で鮭の雌雄判別

迷子発見システム



[図2] 迷子発見システム



「“元祖メディア学部”が“メディア学部ブログ”というメディアを積極活用」

2010年10月8日から開始したメディア学部ブログ (<http://blog.media.teu.ac.jp/>) は、今年で9年目になり、この間に約1800件のブログを介してメディア学部のファクトを情報発信してきました。スタート当初の目標であった「毎日更新する」ということを実直に守ってきています。

そして、メディア学部専任教員の日常的な雑感から、受験生・在学生・卒業生向け、メディア学としての先進的な授業内容や研究成果を紹介してきています。その毎日のブログ執筆の蓄積が、教員の努力の賜物によって実行され、メディア学部の活動記録および研究成果として日々その価値を高めてきています

メディア学部は1999年開設以来、メディア学を体系化してきました。開設10年目を節目として、メディア学の体系化の成果を「ブログ」というインターネットメディアを通じて発信することを決定し、2010年から実践してきました。

メディア学部ブログは次の趣旨をもっており、それは今現在も普遍です。

『メディア学部は他に先駆け1999年に“元祖メディア学部”として将来のメディア社会を担う人材育成を目的にスタートしました。メディア学部では、人文社会系から情報スキル系やコンテンツ制作系までの広い範囲をカバーする実践的な教育を通して、多様な社会ニーズに対応し、新しいソーシャルサービスやコンテンツビジネスを創造する力を身につける教育をしています。それと共に、新しい感覚のアニメやゲームなどを制作するコンテンツクリエイションや先進的な技術を活かした人とコンピューターとのインタラクションなどを追究するスキル教育もしています。教育の成果をすでに広く公開していて、4年制大学では初めて東京国際アニメフェア(2002年から)、東京ゲームショー(2007年から)などに本年まで連続して出展しています。それらのイベントを含むメディア学部の活動をブログにより皆様にご伝えし、皆様からご意見、ご感想をいただけたらうれしく思います。』

今回は9年間にわたる約1800件という膨大なデータベースとしてのメディア学部ブログの内容を紹介させていただきます。

メディア学部には、メディアコンテンツコース(執筆したブログ422件)、メディア技術コース(同153件)、メディア社会コース(同153件)の3つのコースがあり、そのコースごとの授業紹介(同294件)や先進的なメディア学関連の研究紹介を中心として情報発信してきています。

そして、どのような分野のブログがあるかを示すカテゴリとして、あるいは

インターネットのキーワードとしてのタグとして、以下のキーワードを用意して、メディア学の体系化に役立てています。それらのキーワードは表1に示すように、おもしろメディア学、インタラクション、コンテンツ、ソーシャル、ビジネス、社会、授業紹介、研究紹介、ビデオ付

件数順	件数	10件期間	カテゴリ、タグ	ユーザ分類
1	994	2018/06/12	高校生向け	受験生
2	634	2018/06/01	在学生向け	学生
3	428	2018/05/15	研究紹介	研究者
4	422	2018/06/02	コンテンツ	企業・研究者
5	294	2018/05/03	授業紹介	学生
6	250	2018/06/08	イベント	学生
7	214	2018/05/19	卒業生向け	学生
8	193	2018/04/26	お知らせ	受験生
9	185	2018/03/29	広報	受験生・企業
10	153	2018/04/07	インタラクション	企業・研究者
11	149	2017/05/25	おもしろメディア学	学生・受験生
12	108	2017/10/18	雑感	その他
13	81	2018/02/19	ソーシャル	企業・研究者
14	42	2015/12/26	社会	企業・研究者
15	38	2017/01/31	ビデオ付き	受験生
16	30	2014/07/04	ビジネス	企業・研究者
17	20	2016/10/06	入試関連	受験生

【表1】 カテゴリ・タグに関連するキーワード

き、卒業生向け、在学生向け、高校生向け、入試関連、お知らせ、

イベント、広報、雑感、となっています。

特徴的な点をいくつか紹介させていただくと、メディア学部の学生や興味を持っている受験生さらには卒業生に関連したブログ執筆が非常に多いことが特徴です。

卒業生向け(同214件)、在学生向け(同634件)、高校生向け(同994件)、と計1842件(重複も含む)と全体の執筆件数約1800件とほぼ同じになっており、メディア学部専任教員は人を大切にしたい教育研究活動をしていることがうかがえます。また、日本最初のメディア学を自負している専任教員による研究紹介も多彩です。研究紹介(同428件)、コンテンツ(同422件)、インタラクション(同153件)、ソーシャル(同81件)、社会(同42件)、ビジネス(同30件)、おもしろメディア学(同149件)と1305件(重複も含む)、全体に対して約73%の割合でメディア学の体系化に寄与するブログを執筆してきています。

さらに、メディア学部の授業に関連した情報発信も積極的です。授業紹介(同294件)、おもしろメディア学(同149件)、ビデオ付き(同38件)、と約25%(重複も含む)と体系化されたメディア学の授業内容についての情報発信も積極的に行っています。そして、メディア学部ならではの、ビデオ付き(同38件)により、メディア学部の研究成果あるいは授業風景・授業内容などを紹介していることも大きな特徴のひとつです。ここでは、在学生が撮影される教員との打ち合わせ、撮影・音声・照明・動画編集・動画配信、を担って動画を完成させており、メディア学部のユニークさを大いに発揮しています。

件数順	件数	10件日数	カテゴリ、タグ	分類
1	994	2018/06/12	高校生向け	受験生
2	634	2018/06/08	イベント	学生
4	422	2018/06/02	コンテンツ	企業・研究者
2	634	2018/06/01	在学生向け	学生
7	214	2018/05/19	卒業生向け	学生
3	428	2018/05/15	研究紹介	研究者
5	294	2018/05/03	授業紹介	学生
8	193	2018/04/26	お知らせ	受験生
10	153	2018/04/07	インタラクション	企業・研究者
9	185	2018/03/29	広報	受験生・企業
13	81	2018/02/19	ソーシャル	企業・研究者
12	108	2017/10/18	雑感	その他
11	149	2017/05/25	おもしろメディア学	学生・受験生
15	38	2017/01/31	ビデオ付き	受験生
17	20	2016/10/06	入試関連	受験生
14	42	2015/12/26	社会	企業・研究者
16	30	2014/07/04	ビジネス	企業・研究者

【表2】 10件日数をまとめたもの

を確認するとオープンキャンパスを紹介する「高校生向け」ブログが1位、同じく「イベント」ブログが2位、以下、コンテンツ、在学生向け、卒業生向け、研究紹介、授業紹介、と続きます。この記事執筆しているタイミングが7月なので、在学生や卒業生向け、あるいは1~3月の発表した研究紹介、4月から始まった授業紹介、が多いことが確認できます。

以上のように、多様で日々更新されるメディア学部ブログに下記QRコードからアクセスしていただき、お読みくださいますようお願いいたします。

元祖メディア学部



元祖メディア学部

最後に最近のメディア学部あるいはメディア学部の専任教員が興味を持っていることを説明するために、10件日数を使用します(表2)。これは最新のブログ10件を執筆した期間を示す指標であり、これが短い(最新の日付)ほど、最近、多くのブログが執筆されておりメディア学部としての興味を示す指標となります。これ



「NHK 学生ロボコン 2018 に出場」



6月10日に大田区体育館で開催されたNHK学生ロボコン2018に本学のチームが出場しました。大会出場には書類審査と2回のビデオ審査に通過しなければなりません。毎年全国から約50チームのエントリーがありますが、最終的に大会に出場できるのは24チームとなります。本学チームは2016年に出場して以来、3年連続で大会出場を果たしました。

初の決勝トーナメント進出を目指して頑張ってきた今大会でしたが、本番でロボットが思ったように動かず、結果、予選敗退となりました。ルールが発表されてから約10か月間、メンバーたちは協力しあいながら、時には徹夜もしながらロボット開発を行ってききましたが、大会はあっという間に終わってしまいました

(ロボットを動かせた時間は2試合分のわずか6分のみ)。しかし、このわずかな時間で活動開始当初から実現を目指してきた「誰も考えつかなかったようなアイデア」を見事披露することができ、独創的なアイデアはもちろん、それを実現する技術も評価されました。大会を終えた今、メンバーたちはすでに来年の大会を見据えて歩み始めています。今現在、夏休みに開催される学外のロボコン大会に向けて活動を行っています。来年こそは決勝トーナメントに進出できるよう、この機会に個々人の技術力を伸ばしつつ、本番でミスの起こらない堅実なロボット作りのノウハウを習得できればと思っています。

2019年大会では、4年連続の大会出場と初の決勝トーナメント進出を実現し、「おもしろい！けど強い！」と言われるようなチームになれるよう頑張っていきます。



「電気自動車(EV)プロジェクト オープンキャンパスで展示」

工学部の戦略的教育プログラムの1つとして、電気自動車(EV electric vehicle)の製作を始めてから1年が経過しました。参加人数の増減は多少ありましたが、工学部3学科で40名を超えるメンバーが1年間、EV製作を続けてきました。そしてこれまでの活動と進捗状況をオープンキャンパスで展示しました。

EVの製作は、①強化プラスチック材で作られた車体カバー、②アクセル・ブレーキやタイヤを組み込んだ車体フレーム、③モータとバッテリーから構成されるタイヤを回転させるためのパワートレイン、の3グループで行っています。各学科の専門性を生かし、車体カバーを応用化学科の教員、車体フレームを機械工学科の教員、パワートレインを電気電子工学科の教員が、学生へのアドバイスを行っています。

この1年で、カウルでは小型の試作を繰り返し、車体サイズのカバーを製作する方法を確立しました。車体フレームでは、車体が転倒してもドライバーの安全が確保される強度のフレーム設計と製作を行ってききました。パワートレインでは、タイヤに取り付

けるモータと制御基板を製作し、走行状態に合わせて4輪それぞれの回転数を制御する駆動系を完成しました。

オープンキャンパスでは、車体フレームとパワートレインが共同制作した公式競技用タイヤの回転デモや、実寸大カウルの下枠を展示しました。また、アクセル、ブレーキ、ハンドルの操作で2つのモータを動かす模擬運転の体験するコーナーも設け、電気自動車プロジェクトの魅力をアピールしました。



「工学部1期生の就職活動は高い内定率で推移」

工学部では、平成27年の創設以来、コーオプ教育、サステイナブル工学及びグローバルエンジニア教育を3本の柱として掲げて学生の教育を行ってきています。来年3月には、機械工学科、電気電子工学科及び応用化学科の1期生約300名が卒業し、社会に出て行くことになります。就職を希望する学生たちは、現在、就活に忙しく取り組んでおり、6月末の時点での内定率は、工学部の平均で70%と好調に推移しています。

工学部では特徴ある就職向けカリキュラムとして1年から3年間かけてコーオプ演習・実習を行っています。コーオプ実習では、約2ヶ月の実習を通じて、実際の企業で就業を体験します。コーオプ実習・演習で得られた経験から、企業について知識や就職へのハードルが低くなり、就活が順調に進んでいるようです。

また、コーオプ実習を受け入れてくださった企業へも一定数の学生が就職を希望しています。実習で、学生は業務内容だけでなく、社風や人間関係なども深く知ることができ、企業は、学生の

専門能力だけでなく、仕事への態度や人柄まで知ることができ、双方が理解した上での就職が望ましいと考え、本年3月5日にはコーオプ受け入れ企業に大学へ来ていただき、学内合同企業説明会を開催しました。こうした一連の流れの中で、受け入れ企業の求人に応募し、内定を得た学生が出てきています。

工学部では、学生が多くの選択肢の中から自ら選んだ企業から内定を得られるよう、キャリアサポートセンターとコーオプセンターが力を合わせて支援を行っています。これらの取り組みの下、学生たちが希望の企業への就職を勝ち取り、自らの夢や希望の実現に向けて着実に一歩を踏み出してくれることを期待しています。





「国際連盟「Cumulus」に加盟。世界を舞台にデザインを発信。」

2018年4月、本学部はCumulus（クムルス）への加盟がCumulusコンファレンスの総会にて承認され、会員となりました。

Cumulusは、アート、デザイン、メディアの教育機関が加盟する国際連盟です。世界各国の美術大学や、メディアとテクノロジーに関連した大学が加盟しており、現時点（2018年6月）でその数は55カ国275校となっています。

Cumulusの目的は、参加している教育機関が情報交換をしながらお互いに「つながり」を築くことです。そしてコラボレーションプロジェクトや大学同士の提携、交換留学や国際的なワークショップの連携が生まれることが期待されます。4月にフランス・パリで開催されたCumulusコンファレンスのテーマもそれを象徴するように「TOGETHER/THERE/TOGETHER」となっています。

そのコンファレンスでは、主に美術やデザインの教育と研究について発表が行われ、数々の問題提議と議論がなされていました。メディア・テクノロジーがアートやデザインと結びついた発表も共存するのがCumulusの特徴と言えるでしょう。

Cumulusでは年2回の国際会議が開催され、会場は毎回変わっていきます。例えば、今年4月にパリの美術教育機関の連合であるCÉSAAP (Conférence des Écoles supérieures d'Arts appliqués de Paris) の主催でパリにて開催。11月には中国の江南大学主催で上海の西の無錫市にて開催予定。2019年の5月にはフィンランド・ラップランド大学主催でロヴァニエミにて開催予定と開催地もバラエティに富んでいます。

パリでのCumulusコンファレンスには、デザイン学部を代表して松村誠一郎教授が加盟証書を授与されるために出席しました。数多くの参加者と交流し、日本で行われている美術・デザイン・メディア教育に彼らが強い関心を持っていることを実感しました。特にテクノロジーと結びついたデザイン分野は、各国でも教育と設備投資を実施しており、共通の話題に上がりました。このCumulus加盟が、本学の積極的な国際展開を加速する契機となることを期待しています。



加盟証書の授与



Cumulus コンファレンス開場



Cumulus コンファレンス会場内



「インターナショナル・ウィーク ランチタイム報告会を開催」

医療保健学部では、国際的な教養を育む一環として、各学科の学生や卒業生、教員による職種ごとの世界的なトピックスを紹介する場としてインターナショナル・ウィーク ランチタイム報告会を前期に実施しています。今年度は7月2日～6日の期間に実施され、延べ344人の学生や教職員の方々が参加しました。

臨床検査学科からは2年生の木村さんが「フィリピン 海外語学研修に参加して」をテーマに研修を通して学んだことや楽しかった事を学生の目線から伝えて頂きました。

理学療法学科からは教員の十島純子教授が「U.C.バークレー留学記」と題してカリフォルニア大学バークレー校に留学し、海外での研究と子育てを行った経験を多くの学生に伝えて頂きました。

臨床工学科からは卒業生で2期生の稲垣さんが「発展途上国の医療の現状」として、発展途上国の人工透析事情やカンボジア王国の医療の実態を臨床工学技士の立場から国際的な展望についてお話し頂きました。

作業療法学科からは友利幸之介准教授が「国際共同研究を展開するコツ」として、ご自身の研究成果である作業選択意思決定支援ソフト(ADOC)というiPadアプリの開発から、開発したアプリを通じた国際共同研究を紹介して頂きました。

最終日は看護学科2年生の石川さん、落石さん、小野さん、臨床検査学科2年生の石井さん、星野さんが「参加型職場環境改善プログラム メコンデルタ2017に参加して」をテーマにベトナムカント市における、病院ナースに対する職場環境改善の教育実践の様子、他国との学生との交流や文化の違いなど報告して下さいました。

例年、下級生の参加が多くなっていますが、本年度は上級生の参加も多く、大変活気のある一週間となりました。





「人生そのものを考え直す、フィリピン語学研修」

今年3月に3週間の第1回フィリピン語学研修が実施されました。フィリピンは日本との時差が-1時間、飛行機で5時間弱と比較的近い国ですが、初めてマニラを目にした学生は、日本では当たり前のことがこちらではそうではないこと、目の当たりにする貧富の差、十分整っていないインフラなど、到着早々カルチャーショックを受けていました。この研修は cultural immersion を1つの目的にしているの、まさに到着早々文化イメージを体験することになりました。

この研修に参加した学生は11名（八王子8名、蒲田3名）です。はじめは静かだったメンバーも、事前授業などを繰り返すうちに親しくなり、現地では非常に団結力の強いチームに成長しました。滞在は寮でしたが、キッチンを借りて日本食パーティを開いたり、具合が悪くなった仲間をサポートしたり、お互いが助け合って素晴らしい人間関係を築いていました。

語学研修先は、本学の提携先デラサル大学附属の語学研修センターです。授業は1コマ2時間を1日3コマ。先生方はゆっくりと優しい英語を話すので、わかりやすい授業でした。本学の学生と他国からの学生の少人数混成クラスで、学んだ英語をすぐに使ってコミュニケーションでき、またデラサル大学の好意で現地学生との交流会も実施できたので、学生にとって非常に有意義な経験ができました。

この研修は、語学だけではなく異文化体験プログラムが充実しています。最初の週末は、バセコというスラム街で Gawad Kalinga という NGO の協力のもと、100人分のランチを貧しい子供たちに提供するボランティア活動を行いました。学生は調理班と子供と遊ぶ班に分かれ、調理班は食材の買い出しから担当。買い出し後はスタッフの指示に従い準備を進めていきます。一方遊び班は、またたく間に集まってきた子供たちと、鬼ごっこやボール遊びなど、汗だくになりながら必死に遊びます。日本から持参したおもちゃが大活躍でした。食後は感謝状贈呈式もあり、帰る際には、手を振りながらバスを追いかけてくる子供たちと涙の別れ。最初の週末の、ある意味「衝撃的な」ボランティア活動は、この研修に参加した意義を再確認し、学生の感想によれば「人生が揺さぶ

られる経験ができる」活動になりました。

次の週末はフェアトレードを考えるプログラムに参加しました。この NGO キルス財団は、ごみやジュースパックを利用したリサイクル製品で成功した有名な団体で、作られた製品（バッグ、アクセサリー、カゴなど）は海外でも人気です。学生たちはリサイクルについての説明を受けたあと、製品を作る工程を見学。その後はフィリピンの家庭で昼食をとるとし、現地の人々の暮らしを直に感じていました。心のこもった家庭料理を存分に味わった学生たちは、ホスピタリティについても考えさせられたようです。

はじめは「3週間は長い」と思っていた学生も、帰国日が近くなると「もう3週間！？早すぎる」に変わっていました。学外活動ブログでのコメントからも、非常に充実したプログラムであったことがわかります。唯一残念だったのは、3週目に体調を崩す学生が多く出たことです。疲れもありますが、マニラの衛生環境が原因でもあるので、次回の研修では、今回参加した学生にアドバイス等のサポートを依頼する予定です。

近くて遠い国フィリピン。ここで得た経験を、学生たちはおそらく生涯忘れることはないでしょう。片言でも日本語を話そうとしてくれた子供たち、つたなくても一生懸命英語で自分を伝えようとした学生、フィリピン語学研修は「人生そのものを考え直す」研修であることは間違いのないと思います。



「平成29年度集中実技（スキー）報告」

2018年2月中旬、今年も群馬県嬭恋村にある万座温泉スキー場において集中実技（スキー）が行なわれました。総勢は67名、学生58名、指導者7名（うち外部講師6名）、職員2名でした。4年前までは約100名余りの参加数も年々減少傾向にあり、集中実技に興味があっても春休み休暇はアルバイトに専念したいとする学生が多いようです。また、1月23日に起こった草津本白根山噴火事件により履修を取り止める学生もあり、当初より9名減、過去には見ない低い参加数となりました。

実習当日、初っ端からバスの集合場所を間違えたり、寝坊してバスの出発時間を大幅に遅らせ、結局、自力で現地へ向かうという考えられない伝説を築いた学生も出ましたが、何とかスケジュール通りに実習を始めることができました。

どの科目でも、少人数の授業は個々の学生に目が行き届き、指導にかける個々への時間配分も増えるという長所がありますが、今回の実習はまさにそれでした。さらに、実習2日目以降は良い天候に恵まれたこともあり、学生の滑走能力は見る見るうちに上達し、その波及効果が随所に現れました。特に、実習の中盤以降は、何事にも活気を漲らせ、積極的に取り組み、それが学部・学科・学年を超えた友人関係の構築にも繋がったようです。

その積極性は留まらず、4日目の午後でしたが、計画にはなかった「バジテストをやってほしい」という要望が上級班から出されました。自分の実力が基礎スキーのどのレベルにあるのかを知りたいという向上心の高い学生が多数存在し、急遽、バジテスト（1～3級）を開催することとしました。幸いにも、指導者5名は全日本スキー連盟（SAJ）の公認検定員資格を所持しているため、検定の実施には何の問題もなく、有資格者らの快い協力のお陰で検定前講習を含め、無事検定会が実施できました。結果は1級合格者2名、2級合格者6名、3級合格者9名でした。

実習は初日と最終日を除き、午前は2時間半、午後は3時間を目安に行ないました。学生もさすがに日に日に疲れを蓄積しているようでしたが、宿舎は複数の源泉を有する温泉宿、疲れを癒し

てくれる「石庭露天風呂」があります。学生らは食後のミーティングが終わると仲間内で露天風呂へ急ぎ、髪を洗って露天風呂に浸かりました。外気が氷点下のため、髪はバリバリに凍り固まる現象に普段では体験することがないため、子どものようにしゃぐ学生たちを垣間見、思わず吹き出してしまいました。

4泊5日の実習はあっという間でした。何よりも怪我人や病人がなく、無事終了できたことは、多くの関係者の協力と支援のお陰です。そのことを各自の肝に銘じ、スキーを一生継続できるよう学生に要望し、実習の幕を降ろしました。

実習終了後の学生の感想文を総括すると、9割の学生が「この実習に参加して良かった」との所感でした。また、滑走技術の習得はもちろん、付随する多くの事柄も学べたようで、「運動が規則正しい生活を送るための基本であること」、「集団生活や公共におけるマナーや自己管理の大切さ」や「友人関係の構築は様々な利点があること」などでした。当たり前のことですが、学生が改めて体験から得たこと、実際に体験して身に付いたことは何よりの財産です。今回の実習で得たことを是非、今後の学生生活でも惜しみなく活用してくれることを期待して止みません。





「大学院の近況について」

本学大学院は現在1研究科4専攻となっていますが、新しい研究科新設のための準備が着々と進んでいます。執筆時点でアナウンスされている通り、工学研究科サステナブル専攻（2019年4月新設）とデザイン研究科デザイン専攻（2019年4月設置認可申請中・仮称）です。

新研究科の詳細については次号以降に詳しく紹介しますが、より幅広い分野をカバーし、優れた研究者・技術者を育成することができる環境を整えつつあります。

大学院工学研究科（2019年4月新設）

名称：大学院工学研究科サステナブル工学専攻
定員：博士前期課程30名、博士後期課程3名
設置キャンパス：八王子キャンパス

大学院デザイン研究科（2019年4月設置認可申請中）

名称：大学院デザイン研究科デザイン専攻
定員：修士課程10名
設置キャンパス：蒲田キャンパス

「学士・修士一貫早期修了プログラムの概況」

本学では、学部課程と博士前期課程（修士課程）をそれぞれ3.5年間と1.5年間の計5年間で修了し、学士号と修士号を通常の6年間より1年早く取得できる制度「学士・修士一貫早期修了プログラム」を導入しました。制度導入後、その第1期生が現在5年目（修士2年生相当）となり、今年度末の修了を目指して研究に励んでいます。

トータルで1年間短く修了することができますが、学部4年間で修得すべき全ての単位を（優秀な成績で）3.5年間で取得して学部を卒業し、修士2年間で修得すべき全ての単位を1.5年間で修得することになり、相当な努力と覚悟が必要となる制度です。

一方で、学部4年生の卒業研究・卒業課題と修士での研究を一貫したテーマ設定を行い、研究を遂行できるため、充実した研究

活動を行っているようです。これは第1期生の外部発表等が着実に成果を上げていることからもうかがえます。

本制度の第1期生（2017年9月学部卒業・大学院進学）は、研究科全体で男子学生7名、女子学生8名の計15名です。また、第2期生（2018年度9月学部卒業・大学院進学予定）は、男子学生13名、女子学生6名の計19名を大学院に新たに迎える予定です。

学部・専攻によって、あるいは研究内容によって、この制度の利点が発揮できるケースと通常の6年間で計画・遂行することが適当なケースがあるとの声もありますが、メリットを十分に生かせるような仕組みに発展させていければと考えています。

「出身国で見る大学院の国際化」

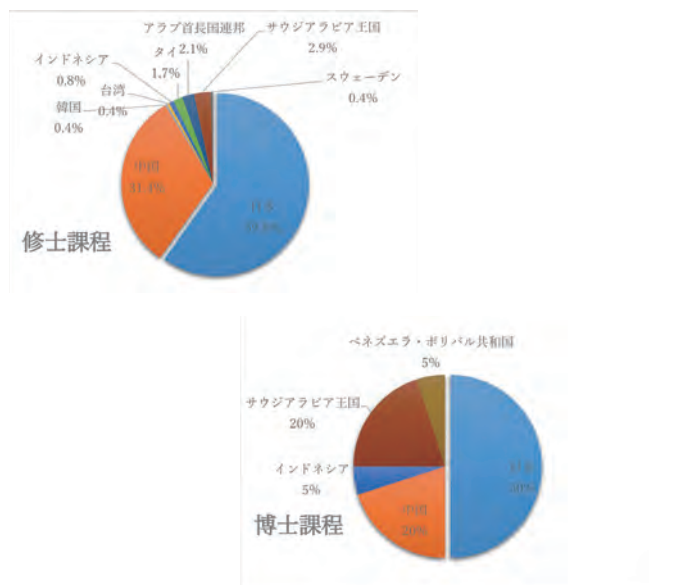
現在、大学院研究科に在籍する学生を出身国別に見てみると、修士課程在籍者（239名）のうち日本人がおよそ6割で、次いで中国からの留学生がおおよそ3割を占めます。

その他は数名ずつになりますが、中東諸国、アジア諸国、北欧からの留学生が在籍しています。

博士課程在籍者（20名）は少数のため参考までですが、半数が日本人、サウジアラビア王国、中国からの留学生が同数で続きます。（データはいずれも執筆時点）

修士課程では研究活動のみでなく、専門科目（講義）の単位を修得する必要があり、留学生向けに英語で行う講義を用意しています。学部とは異なり、大学院では日本への留学の目的が特定の教員からの研究指導であることが多く、研究活動には日本語の十分な理解・運用が必ずしも必要ではありません。

今後は一層の国際化と研究活性化のため、言葉の障壁を取り除くなど大学院としての留学生受け入れの体制を充実していくことが重要だと考えています。



「大学院説明会の開催報告」

7月15日の八王子でのオープンキャンパスにあわせて、大学院としては初めての大学院説明会を開催しました。

バイオ・情報メディア研究科および工学研究科の概要を各研究科長から説明したのち、専攻ごとの個別相談を各専攻長が行いました。

猛暑の中、学内外から約20名の参加があり、個別相談では一組当たり15～20分程度をかけて進学や研究テーマに関する相談に応じました。参加者は、本学および他大学の学部生、海外の大学を卒業して来日している留学生でした。

説明会終了後には、オープンキャンパスの研究室紹介に立ち寄り、希望する指導教員を見つけて相談する参加者もあり、初めての大学院説明会としては、とても有意義なものとなりました。







Campus Scenes 「FOODS FUU」

JR 蒲田駅西口から、工学院通り会を抜けてくると突然現れる道路を挟んだ2つの大きな校舎が「FOODS FUU」と「FOODS FUU2」です。「FOODS FUU」は、上層階に専門学校の教室、下層階には、全280席の開放的な学生食堂があります。また、全230席を有する「FOODS FUU2」は、モダンな内装で昼食以外に学内パーティーやレセプションなどにも利用されています。



学生・教員の受賞と活動

School of Bioscience and Biotechnology 応用生物学部

「Outstanding Reviewer Statusを受賞」



吉田亘応用生物学部講師が、学術論文を発行しているElsevier社の学術誌「Biosensors and Bioelectronics」と「BBA - General Subjects」の編集部から、Outstanding Reviewer Statusを受賞しました。

この賞は、過去に2年間の査読数が上位10%の研究者に贈られ、この学術誌に対して貢献をしたことを表しています。

「化粧品サークルが読売新聞で紹介される」



5月18日発行の読売新聞多摩版に、本学化粧品サークル(LCC)が紹介されました。

記事では、学生自らが企画した化粧品を、八王子市のイベント「学生天国」で販売している様子が紹介されました。またサークルの紹介や、学生のコメントなども紹介されました。

School of Computer Science コンピュータサイエンス学部

「感性工学会春季大会で修士学生が優秀発表賞受賞」



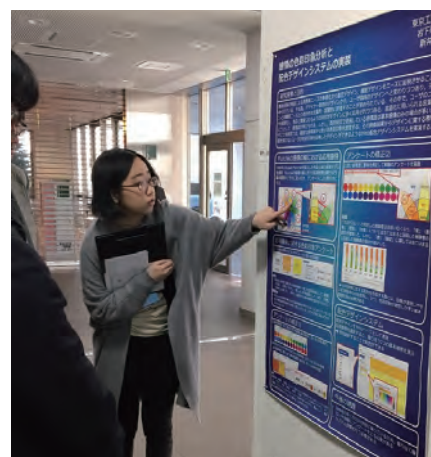
岩下准教授(左) 茂手木新之介さん(右)

3月27日～28日に名古屋大学で行われた第13回感性工学会春季大会において、大学院コンピュータサイエンス専攻の茂手木新之介さん(当時修士2年生)が、優秀発表賞を受賞しました。

発表したタイトルは、「Word2VecとAIMLを用いた雑談対話システム」で、AIMLという形式で書かれた対話データの中から、Word2Vecという方法を用いてユーザの発話に似たような発話データを探し出し、その応答文を返すという方法です。例えば、ユーザが「海水浴に出かけたいなあ」と言ったときに、対話データの中のある似たような発話「海に行きたいですね」を探し出し、その応答文である「いいですね」を出力するというものです。

また、同大会のポスター発表は85件の発表があり、コンピュータサイエンス学部4年生の新井さんが「感情の色彩印象分析と配色デザインシステムの実装」を発表しました。「Plutchikの感情の輪」という、感情と色彩の関係を表した理論においては、基本的な感情に対する色彩しか提唱されていません。また、基本感情についても文化によって感じ方が異なります。新井さんはまず、基本感情に対し

て感じる色をアンケート調査し、それらを組み合わせて複雑な応用感情に対して感じる色彩を調査しました。その結果を使って、Webページのデザインを直感的に行うシステムを開発しました。発表会場は多くの人だけがあり、新井さんは1時間半以上、休むことなく説明して続けました。



School of Media Science メディア学部

「IWAIT 2018にてBest Paper Awardを受賞」



2018年1月8日～10日にタイで行われたInternational Workshop on Advanced Image Technology 2018 (IWAIT 2018)にて、鶴田直也メディア学部助教がBest Paper Awardを受賞しました。

発表内容

Naoya Tsuruta, Takehiro Teraoka, Kunio Kondo and Masaki Hayashi, "TV Show Template for Text Generated TV," International Workshop on Advanced Image Technology (IWAIT), CD-ROM, Jan. 7-10, 2018.

「Anime Japan2018に出展しました」

メディア学部は、2002年2月に開催された東京国際アニメフェアに大学からは初となるブースの出展をして以降、毎年継続してブースを出展しています。

2018年2月に開催されたアニメジャパン2018では、メディア学部学生の研究成果および教育成果発表を出展しました。



「八王子学生CMコンテストで特別賞を受賞」



大学コンソーシアム八王子主催の学生 CM コンテスト「八王子学生 CM コンテスト」で、2 年生の鈴木沙織さんが作成した作品「空を見上げれば」が「特別賞」を受賞しました。

このイベントは学生ならではの視点で八王子の魅力 30 秒で表現した動画作品のコンテストで、受賞した作品は授業「先端メディアゼミナール 新しい広告の研究」(担当教員:進藤美希教授)の一環として作成した動画作品です。

鈴木さんのコメント

映像作品を作るのは初めてだったのですが、賞を頂けてとても嬉しかったです。審査員の方からコメントも頂けてキャッチコピーの良さを評価していただき、とても驚き嬉しかったです。これからの制作の役に立つコンテストだったと思います。ありがとうございました。

「Expressive Japan 2018で学生が受賞」

3月16日に本学浦田キャンパスで開催された映像表現・芸術科学フォーラム 2018(Expressive Japan 2018)においてメディア学部 4 年生らが各賞を受賞いたしました。

映像表現・芸術科学フォーラム 2018 は、映像情報メディア学会映像表現& コンピュータグラフィックス研究会、画像電子学会、芸術科学会、CG-ARTS の 4 団体の共催で開催されるフォーラムで、CG、アニメやゲームなどのコンテンツ制作やメディアアートなどに関する活発な議論を行っています。

『CG-ARTS 人材育成パートナー企業賞』『優秀発表賞』 コンテンツ中のキャラクターから手渡しでチラシを受け取る デジタルサイネージ

林大樹さん(4年生) 志賀貞博さん(4年生) 須田隆太郎(4年生)
太田高志准教授

『優秀発表賞』 小学校段階におけるプログラミングのための円滑な導入教育に 関する考察

山田聖也さん(4年生) 原田拓輝さん(4年生)
長谷川隼兵さん(4年生) 桑原明栄子(明星大) 椿郁子准教授

ポスター発表『CG-ARTS人材育成パートナー企業賞』 作画に着せるジェネラティブアートによるアニメーション制作手法

滝野翔さん(4年生) 鶴田直也助教・近藤邦雄教授

ポスター発表『優秀発表賞』 機械学習を用いたアニメ絵コンテの自動着色手法

宋京舟さん(4年生) 三上浩司教授

3DCGによるセル画特有の輪郭線描画手法の提案

谷野克成さん(4年生) 菊池司教授

季節感を感じさせる嗅覚刺激に関する研究

川満陽太さん(4年生) 菊池司教授

ポスター発表『CG-ARTS 人材育成パートナー企業賞』

3DCGによるセル画特有の輪郭線描画手法の提案

谷野克成さん(4年生) 菊池司教授

「ソーシャル・デザイン委員会の活動報告書を発行」



千代倉弘明メディア学部教授が委員長、飯沼瑞穂メディア学部准教授が副委員長を務める日本 MOT 振興協会「ソーシャル・デザイン委員会」が平成 29 年度に発足し、活動報告書 VO 1

47「特集 ソーシャルデザイン委員会が発足」が発行されました。

活動報告では MOT ではソーシャル・デザインを「持続可能な社会の実現に向けたアイデアや仕組み、それを支える過程や技術、新しいビジネス、さらには社会のシステムのデザイン」と定義しました。

白井克彦会長と最高顧問の相磯秀夫前学長が参加し、「今後が楽しみだ」と語る様子が掲載されました。

「経済産業省の委託事業で基調講演を実施」



三上浩司メディア学部教授が「平成 29 年度経済産業省委託事業アニメーション分野におけるデジタル制作環境整備のためのネットワーク管理システム整備に係る調査研究委託事業の成果発表セミナー」で基調講演を実施しました。

本事業は一般社団法人日本動画協会が受託した経済産業省事業です。本調査では、ネットワーク管理システムの基盤整備に関わるアニメーション制作管理の具体的な使用の策定に取り組み、その成果をマニュアルとして整理する、アニメ業界の国際競争力向上のための基盤事業で、三上教授はその検討委員会の委員長として、事業に参加し取りまとめに従事しました。そして、その成果を広く業界関係者に知らしめるためのセミナーにおいて、基調講演に登壇しました。

「第80回情報処理学会全国大会で学生奨励賞を受賞」

3月15日(木)~18日(土)に早稲田大学で開催された第80回情報処理学会全国大会において、本学学生が発表した論文が学生奨励賞を受賞しました。

分光画像推定による動物の見る色彩のシミュレーション

淵之上風太さん(4年生) (柿本正憲教授)

聴覚アテンションを基軸とした広告サービス

柳田隼佑さん(4年生) (上林憲行教授)

被面接者の発言を促すための擬人化エージェント面接の提案と効果検証

今泉陽介さん(4年生) (上林憲行教授)

動画教材におけるグラフィカルなサマライゼーションの提案とその学習行動の実証的な研究

高橋咲江さん(4年生) (上林憲行教授)

家庭向けネットワーク機器のホワイトボックス化の提案

藤島久磨さん(4年生) (寺澤卓也准教授)

「メディア学部研究室合同卒業研究発表会を開催」

4年生の卒業研究発表「しゅやで こうか 2018」を2月24日 AP 渋谷道玄坂(渋谷シネタワー)13階 A 会議室で開催しました。

今年で3回目となるこのイベントは、メディア学部であればこそ「テーマ」[発表形式]を一般の方にも十分楽しんでいただくこと、「発表そのものがメディア」となることを目指すイベントです。



「プロジェクト演習最終発表会を開催」



1月17日にサステナブル工学プロジェクト演習の最終発表会を開催しました。工学部の学生全員が学ぶサステナブル工学の集大成として、3年後期は各学科1、2名ずつの混成チームで身近な製品の改善提案に取り組みます。発表会では、修得してきた知識と評価手法を駆使して実践した改善例を披露し、学修成果を確認しました。

「コーオペ実習成果発表会を開催」

コーオペ実習の成果発表会を6月20日に片柳研究所棟(八王子)で開催しました。

この会は平成29年度後期に2か月間のコーオペ実習で企業において就業した機械工学科3年生による発表会で、学生はコーオペ演習Ⅲの授業の中で自身の実習を振り返り、成果や課題、学んだことなどを1枚のポスターにまとめ発表しました。



当日は雨の中、実習学生を受け入れていただいた企業を中心に44社60名の方々にお越しいただきました。また工学部教員やこれからコーオペ実習に向かう機械工学科2年生など多くの人を向かえ、盛況のうちに終了しました。参加された企業の方からは、「学んだことを、自分の言葉で伝えようとする学生の姿を見て、コーオペ実習により多くのものを得ていることが良くわかりました」、「学生が多くの企業とかわる良い取り組みだと思えます」等といった感想を頂きました。

また、学生も自身がお世話になった企業の方と久しぶりに顔を合わせ自分の成長を見てもらうよい機会となりました。

「コーオペ実習直前ガイダンス、引き継ぎ会を開催」

平成30年度1・2期(1期:4月9日~6月7日、2期:6月11日~8月3日)に実施する工学部電気電子工学科・応用化学科3年生のコーオペ実習を前に、3月29日にコーオペ実習直前ガイダンスを開催しました。直前ガイダンスでは、2年次後期にコーオペ演習Ⅱで学んだマナーなどの再確認や注意喚起、また、実習に向けた事務手続き等について説明を受けました。

その後、実施された引き継ぎ会では、前年度後期にコーオペ実習で就業体験をした工学部機械工学科の学生から、1期に実習に取り組む電気電子工学科・応用化学科の学生に対し、体験談等を伝えてもらいました。



「日本産業カウンセリング学会において奨励賞を受賞」

平成29年8月26日~27日に開催された、「日本産業カウンセリング学会第22回大会」において、野条美貴就職特任講師が、個人研究発表・実践報告を行っていましたが、このたび学会の奨励賞を受賞しました。今年9月1日の第23回大会で授賞式が行われます。

今回の研究内容は、「キャリアストーリー・インタビューをグループで用いた語りの形成効果」と題して、1対1のキャリアカウンセリングよりも、学生同士がグループの語りを聞くことで、より自己探求や自己理解にプラスの動きをする効果があるのではないかとこの考察を立て、授業実践を通し検証されたものです。

野条就職特任講師は、今後のキャリアデザインの授業の中でも、グループワークを取り入れた際に、学生一人ひとりの気づきや成長につながるような語りの効果を促せるよう活かしていきます。1対1のキャリアカウンセリングだけでなく、学生同士がグループでの語りを聞くことで、自己理解の促進につながり自己効力感が形成され、さらに学生自身が今後のキャリアを前向きに捉え、主体的に行動できるようにすることに貢献されています。



論文掲載学術誌

「21_21 DESIGN SIGHT 音のアーキテクチャ展に参加」

6月29日(金)から10月14日(日)まで、東京の21_21 DESIGN SIGHTにて開催される企画展「AUDIO ARCHITECTURE: 音のアーキテクチャ展」に大西景太講師が映像作品を出展しました。

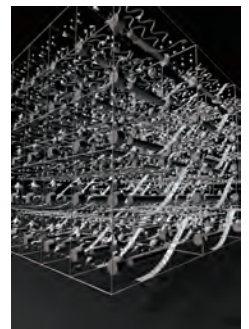
この展覧会は「音楽」を、音色や音域、音量、リズムといった様々な要素によって緻密にデザインされた「構造物=アーキテクチャ」として捉え、表現する試みです。ミュージシャンの小山田圭吾(Cornelius)が「音楽の構造」に着目して書き下ろした新曲『AUDIO ARCHITECTURE』を作家たちがそれぞれの視点から解釈し、制作した映像作品を展示しています。

大西講師は、映像、アニメーション、ダンス、広告、プログラミングなどの多彩な領域を横断しながら表現に取り組む9組の作家の一人として展示に参加しています。

展覧会ディレクションを中村勇吾、会場構成を片山正通(Wonderwall)、技術監修を遠藤豊(LUFTZUG)、グラフィックデザインを北山雅和(Help!)が手掛けています。



展示会ポスター



大西景太 映像作品

「アジアデザイン・アートエキシビジョン 2018 プノンペンに審査員及びワークショップで参加」

葛原俊秀講師は、国家・地域性・風土性を重要視した現代アジアのデザイン・アートとは何かを模索・研究するアジアデザイン・アート展覧会コンソーシアム（以下ADA展覧会コンソーシアム）のメンバーとして活動され、ADA展覧会コンソーシアムでは、シンポジウム、ワークショップ、学びを通して、交流することでアジアに必要な地域性を含んだデザイン・アートマインドを開発・研究しています。

その活動の一環として、今年9月にアジアデザイン・アートトリエンナーレ 2018 をカンボジア・プノンペン大学にて開催し、アートコンペティション、ワークショップ、シンポジウム、レクチャーなどを行う予定です。葛原講師は、その中で、アートコンペティションの審査員を務め、カンボジアにて展示する作品を選出する第1次審査、それらの作品から受賞作品を選出する第2次審査を担当します。また、現地でのワークショップ開催も予定しており、この機会を通して、アジアという枠組みで、デザイン・アートを介したコミュニケーションに挑戦して行きます。



2017年ワークショップの様子（プノンペン）



2018年1月開催シンポジウムの様子
（本展覧会に向けたプレイベント）

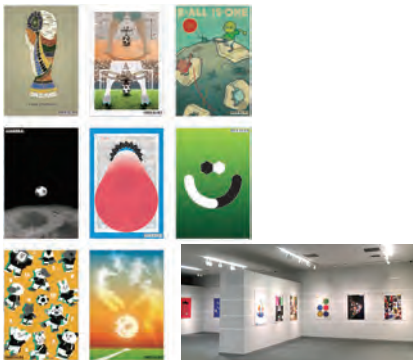
「32カ国のグラフィックデザイナーとポスター展を開催」

6月6日～10日まで、ギャラリー鴻でサッカーをテーマにしたポスター展を開催しました。

この展覧会は、出品者でもある末房志野准教授が海外のグラフィックデザイナーと共に企画したプロジェクトです。「FOOTBALL～Passionate Game」というキーワードをテーマに、32カ国のグラフィックデザイナーとデザイン学部の学生がデザインしたポスターを一堂に展示した展覧会です。

ポスターは、世界中で展示され、各国では、その国の学生たちが同じテーマで制作したポスター作品も募り、展示するという計画で行われています。日本での展覧会は、学生作品は、デザイン学部の視覚デザイン専攻と映像デザイン専攻の学生4年生から作品を募り、8名の学生がポスターを制作し、出品しました。（デザイン学部学生出品者：遠藤功一朗 / 近藤大地 / 神岡真拓 / 高木康平 / 西鶴園和也 / 沼田湧真 / 横田沙弥香 / 吉野佑香）

サッカーは、国籍、肌の色、宗教、性別、見た目などは関係なく、世界中の人々が魅了される熱いゲームが繰り広げられるスポーツです。このプロジェクトの目的は世界共通語として、サッカーの力（ゲーム、情熱、思い、強さ、エネルギー）を再認識し、伝えようというものです。このことを念頭に、出品者一人ひとりがオリジナルポスターをデザインしました。



学生作品

ギャラリー鴻(このとり)



展示会ポスター

「トキの水辺づくり協議会のロゴマークをデザイン」

2007年以来本学サービスラーニング実習で交流をもってきた佐渡市が、トキの生息環境を整備する持続可能な枠組みづくりを構築することを目的とした「トキの水辺づくり協議会」を設立したことをきっかけに、その協議会のロゴマークを本学デザイン学部生が作成することになりました。

デザイン学部3年生（現4年生）からデザイン案を公募し、池田政治デザイン学部長を審査委員長に、デザイン学部教員のほか新潟県佐渡地域振興局の方々も加わった計6名から成る委員会による最終審査により、遠藤功一朗さんの作品が選ばれました。

採用されたロゴデザインは、4月4日に行われた「サントリー世界愛鳥基金」助成金の贈呈式でお披露目され、今後はこのマークが、トキの生息環境を整備するための資金やボランティア活動等の援助を募る営業や広報活動を後押しして、持続可能なトキの水辺づくりに役立てられることとなります。学生のデザインが自然環境の再生や持続可能な取り組みに役立てられることで、実学としてのデザインの意味や役割について実感できるいい機会となりました。



トキの水辺づくり協議会

「トキの水辺づくり協議会」ロゴマーク



審査委員会による審査会後の受賞の様子

「AI研究分科会が学部生対象にワークショップを開催」

御幸朋寿助教、酒井正講師、松村誠一郎教授の参加するAI研究分科会がワークショップを7月に開催しました。

このワークショップは学生に対して「折紙建築の仕組みを活かしたプロダクト製品の提案」をおこなってもらうデザイン課題であり、折紙建築の手法をデザイン教育に取り入れる試みです。このワークショップのポイントは、折紙建築の動きの仕組みを学習し、動きの特徴や形状とプロダクトと結びつけデザインするSTEM教育の手法や、レーザー加工機等によるデジタルファブリケーション技術を用いたラビッドプロトタイピング、手を使ってデザイン検証を行うハンズオン方式のデザイン手法を取り入れるところにあります。

学生は、単なる造形手法としてのデザインではなく、デザイン思考によるデザイン手法を身に付けることができます。ワークショップは3回に分けて行いました。回数が進むに従い、デザインも具体性を獲得していく仕組みになっており、第1回は、折紙建築というテーマから自由にプロダクトを考えイメージを形にもらい、

第2回では折紙建築の特徴である可動のメカニズムを学習し工学的に裏付けられた動きのあるプロダクトデザインへと発展させ、第3回では、レーザーカッターを用いるなどしてプロトタイピングの制作を行いました。



パーテーションのモックアップ



万能スタンド

「警視庁自転車窃盗防止キャンペーンポスターにデザイン学部生案が採用」

昨年の11月末、警視庁生活安全部および大田区蒲田警察署生活防犯課より、「警視庁・自転車窃盗防止キャンペーン」用のポスターデザインの制作依頼があり、デザイン学部の4年生2名（近藤大地さん/視覚デザイン専攻、吉野佑香さん/視覚デザイン専攻所属）の制作した案が採用され、今年3月より都内にある公営駐輪場、ならびに主要な公的機関の各所に掲示されました。

制作にあたり、警視庁と蒲田警察署担当者から、近年の都内防犯事情、特に頻発する自転車窃盗に関するレクチャーを受講、学生からは有志11名が参加し、約3ヶ月にもわたる1次、2次提案を重ねた後、今回の主要なテーマである、「加害者への防止ではなく被害者の視点で注意を促す」提案を重ね、学部内での審査、ならびに警視庁生活安全部内での審査を経て、最終採用に至りました。また同時に提案した優秀3案も、大田区内の教育機関を中心に、ポスター、ポケットティッシュとして広布され、大田区内での防犯に一役買うことになりました。

一連の制作協力は、昨年度の学報66号でお知らせした「振り込め詐欺防止キャンペーン」用のポスターの評価が高いことから、官学連携の一環として連続しての依頼となり、大学と地域の協力による、デザイン学部の提案力を活かした「デザインによる問題解決」で、再度貢献することができました。



近藤は、鍵のかかっていない自転車を狙う。
近藤大地さん作品



吉野佑香さん作品

School of Health Sciences 医療保健学部 看護学科 / 臨床工学科 / 理学療法学科 / 作業療法学科 / 臨床検査学科

「優秀プレゼンテーション賞を受賞」



昨年11月2日～3日に松江で開催された第27回日本臨床精神神経薬理学会学術大会において榎本みのり臨床検査学科講師が優秀プレゼンテーション賞を受賞しました。

演題
日本における睡眠薬の長期処方への動向

「平成29年度医療保健学部国家試験合格率について」

医療保健学部の新卒者国家試験合格率は以下のとおりです。

国家資格	学科	受験者数	合格者数	合格率	全国平均*
看護師	看護学科	107名	107名	100.0%	91.0%
		20名	19名	95.0%	81.4%
理学療法士	理学療法学科	76名	68名	89.5%	81.4%
作業療法士	作業療法学科	47名	44名	93.6%	76.2%
臨床工学技士	臨床工学科	81名	72名	88.9%	73.7%
臨床検査技師	臨床検査学科	82名	66名	80.5%	79.3%

*新卒・既卒の全国平均

Liberal arts 教養学環

「豊田ひろ子教授監修の書籍が出版」

豊田ひろ子教授が監修した書籍『おうちで始める！親子で英会話』が朝日新聞出版より出版されました。

この書籍は、朝起きてから寝るまでの日常生活や外出など、親子がすぐに使える会話例を各場面別にイラストで紹介したものです。すべての音声収録されたCD（音声ダウンロード可）と、英語ゲームができるカードが付いています。



『おうちで始める！親子で英会話』

出版者：朝日新聞出版
発売日：2017年12月30日
ページ数：159ページ

〔画像引用〕朝日新聞出版社
https://publications.asahi.com/ecs/detail/?item_id=19546

「落合浩太郎教授が玉川美沙ハピリーに出演」



落合浩太郎教授が、1月27日の文化放送「玉川美沙ハピリー」に出演し、スパイ映画やドラマと現実の違いなどを解説しました。

「落合浩太郎教授の書評などが掲載」

落合浩太郎教授は、産経新聞社系の総合サイト iRONNA に、「世界最悪の秘密警察 KGB は『ブーチンの道具』に過ぎない」を寄稿しました。また4月20日公開の映画「アンロック」にコメント、公明新聞（4月30日）に書評『監視大国アメリカ』を寄稿しました。

「電気通信普及財団賞を受賞」



〔画像引用〕日本評論社 <https://www.nippon.co.jp/shop/book/7550.html>

村上康二郎教授が、第33回電気通信普及財団賞（テレコム社会科学賞）を受賞しました。

この賞は、情報通信について社会科学的観点から追及する優れた著作・論文を表彰するものです。

『現代情報社会におけるプライバシー・個人情報の保護』

出版社：朝日評論社
発売日：2017年9月
ページ数：296ページ

「国際会議 eLmL 2018にて最優秀論文賞を受賞」



金山誉大さん 安藤公彦講師 柴田千尋講師 稲葉竹俊教授

3月25日～29日の期間に開催された国際会議「eLmL 2018」において、金山誉大さん（大学院コンピュータサイエンス専攻2年・柴田研究室）、安藤公彦片柳研究所講師、柴田千尋コンピュータサイエンス学部講師、稲葉竹俊教養学環教授の共著論文が Best Paper Award（最優秀論文賞）を受賞しました。

受賞論文

Takahiro Kanayama, Kimihiko Ando, Chihiro Shibata, Taketoshi Inaba, "Using Deep Learning Methods to Automate Collaborative Learning Process Coding Based on Multi-Dimensional Coding Scheme."

in proceedings of eLmL 2018, The Tenth International Conference on Mobile, Hybrid, and On-line Learning, in Rome, Italy, March 25 - 29, 2018.

論文の概要

会議や協調学習などグループで議論を行うとき、そのプロセスの評価をAIを用いて自動的に行う研究に取り組んでいます。その一環として、各発言に対して意味付けを行う「コーディング」の新手法と、AIによる自動コーディングの研究を行い、金山さんがローマで開催された上記の国際会議にてその成果を発表しました。昨年度に続いて2年連続の受賞になります。なお、本論文は教養学環による学内プロジェクト『ディープラーニング技術による教育ビッグデータの分析・可視化手法の開発・評価』の研究の一環として行われたものです。



「香川豊片柳研究所所長らが学会誌などで紹介される」



香川豊片柳研究所所長らのセラミック複合材料 (Ceramic Matrix Composites 以下 CMC) 研究に関する記事が、NEDO、日本ガスタービン学会、科学技術振興機構の広報誌や学会誌に掲載されました。

CMCセンター香川豊教授の新エネルギー

産業技術総合開発機構発行の focus NEDO 2018 年, No.67 に掲載。

東京工科大学片柳研究所、新井優太郎特別研究員とCMCセンター香川豊教授他の論文、「Siボンドコート層の融解・凝固現象に基づくSiを含むセラミックス基材上の耐環境コーティング組織の変化」

日本ガスタービン学会誌, 46 [1] 57-61 (2018) に掲載されました。

CMCセンターの香川豊教授の内閣府SIPで行っている研究

科学技術振興機構 (JST) 発行の SIP-SM4I MAGAZINE Vol. 6 に掲載されました。

「日本セラミックス協会2018年年会で発表」

片柳研究所 CMC センターの 新井優太郎特別研究員、佐藤光彦特別研究教授、香川豊教授及び七丈直弘コンピュータサイエンス学部教授らが、3月15日～17日に東北大学（宮城県仙台市）で開催された「日本セラミックス協会 2018 年年会」講演大会で2件の発表を行いました。

「熱放射反射コーティング材料の組織が反射率に及ぼす影響の解析」

新井優太郎、川村隆明、田中誠、北岡諭、香川豊

「ボンドコート層及び基材にSiを含む耐環境コーティング材料中のSiの融解・凝固により発生する損傷」

新井優太郎、佐藤光彦、七丈直弘、香川豊

「香川豊片柳研究所所長が招待講演を行う」

東京工科大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻「将来航空推進システム技術創成」社会連携講座で開催された、第5回将来航空推進システム技術創成オープンワークショップで、香川豊片柳研究所所長が「学術分野の協力による CMC 開発」という招待講演を行いました。

「第3回関西高機能セラミックス展で出展および講演」

5月9日～11日にインテックス大阪で開催された、第3回関西高機能セラミックス展にて、CMCセンターで行っている研究成果や企業との共同研究の成果を展示しました。また、佐藤光彦特別研究教授が「SiC系繊維を使用したセラミックス基複合材料について」の講演を行いました。

関西高機能セラミックス展とは、西日本最大級のファインセラミックス産業展で、高機能セラミックス（構造材料、機能材料、生体材料、耐火物）、セラミックス原料（酸化物、蛍光体、窒化物、炭化物）、製造加工技術などが出展する商談展です。



平成三十年度入学式



平成 30 年 4 月 4 日、本学蒲田キャンパスの片柳アリーナにて平成 30 年度入学式を挙行了しました。

様々な夢や希望を抱き、全国から本学に集まった若人 1,883 名(学部学生 1,777 名、大学院生 106 名)が、新たな学生生活のスタートを切りました。

好天に恵まれたこともあり、この日を待ちわびた新入生が朝早くから集まり、3 号館前に作られた撮影ポイントには、新入生と保護者が長蛇の列を作り、晴れ晴れとした笑顔で写真撮影をすませ、地下 4 階に作られた片柳アリーナ内の会場へと足を運んでいました。

午前の部では、片柳鴻学園長、千葉茂理事長、軽部学長、ご来賓の原島博様(東京大学特任教授)が祝辞にたち、これから始まる大

学生生活において、学問への取り組み、多くの友人を通じた経験を持つてほしいと新入生達を激励されました。

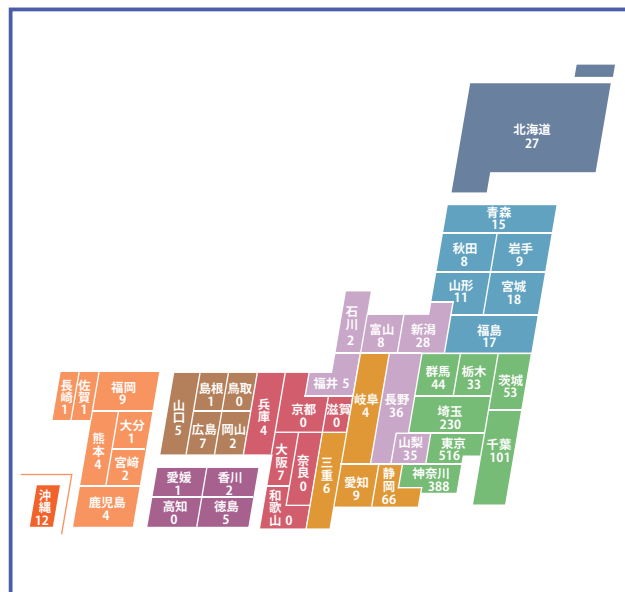
午後の部は保護者の方々にも同席いただくガイダンスとなり、軽部学長、浦瀬教務部長、多田就職部長、佐々木学生部長、中川作業療法学科教授らから、これから始まる学生生活についての話がありました。

次項には軽部学長の式辞を全文掲載しております。本学が掲げる基本理念、3 つの具体的な理念、また、「実学主義」教育を行うための 3 つの教育方針について説明しておりますので、ぜひ一読下さい。

平成 30 年度入学者数

学部学科名	A0 入試	推薦入試	一般入試	その他入試	編入学(2年次)	編入学(3年次)	合計
応用生物学部	47	73	140	9	6	11	286
コンピュータサイエンス学部	44	94	159	6	16	23	342
メディア学部	54	111	123	10	11	12	321
工学部							
機械工学科	18	33	57	-	4	-	112
電気電子工学科	15	20	65	-	4	-	104
応用化学科	6	11	69	-	0	-	86
医療保健学部							
看護学科	20	21	82	-	-	-	123
臨床工学科	20	11	49	-	-	-	80
理学療法学科	15	19	50	-	-	-	84
作業療法学科	15	10	16	-	-	-	41
臨床検査学科	15	21	42	-	-	-	78
デザイン学部	70	73	64	-	-	-	207
学部計	339	497	916	25	41	46	1864
大学院バイオ・情報メディア研究科	A0 入試	推薦入試	一般入試	その他入試	編入学(2年次)	編入学(3年次)	合計
修士課程							
バイオニクス専攻	-	29	11	-	-	-	40
コンピュータサイエンス専攻	-	3	15	-	-	-	18
メディアサイエンス専攻	-	5	17	-	-	-	22
アントレプレナー専攻	-	2	20	-	-	-	22
博士後期課程							
バイオニクス専攻	-	1	0	-	-	-	1
コンピュータサイエンス専攻	-	2	1	-	-	-	3
メディアサイエンス専攻	-	0	0	-	-	-	0
研究科計	-	42	64	-	-	-	106
合計	339	539	980	25	41	46	1970

出身高校の所在地県別入学者数



※平成 30 年度学部新入生数のみ掲載、一部の数字は含まれません。

「学長式辞」

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。また、ご両親をはじめとするご家族の皆さん、関係者の方々にもお祝い申し上げます。

さて、東京工科大学は創立から32年という大変若い大学ですが、建学の理念は昭和22年蒲田に片柳鴻学園長が設立された創美学園の理念を受け継いでおり、基本理念として「生活の質の向上と技術の発展に貢献する人材を育成する」掲げています。

この基本理念を実現するために3つの具体的な理念を定めています。①実社会に役立つ専門の学理と技術の教育、②先端的研究を介した教育とその研究成果の社会還元、③理想的な教育と研究を行うための理想的な環境整備です。これらの理念を一言で「実学主義」と言っています。実学主義には具体的な3つの理念に加えて、人間性を育み、社会と技術・スキルの変化に柔軟に適應できる人間に成長してほしいという願いが込められています。この教育を行うために、本学は3つの教育方針、すなわちポリシーを定めています。

第1は、本学の入学者受入の方針（アドミッションポリシー）です。皆様はこのポリシーに従って入学を許可されたわけですから、全てを読み上げることが省略させていただきます。このアドミッションポリシーはそれぞれ専門の異なる6学部や大学院でさらに具体的に定められています。

2番目は、本学の教育課程編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）です。教養教育は、人文社会系、外国語系、数理系、情報系、自然科学系、ウェルネス系、社会人基礎系から編成されていて、最終的には国際的な教養を身につけていただきます。教養は人生を歩む上での指針となる重要な知識です。次に、専門科目は専門基礎・共通科目群と専門科目群からなり、各学部、学科の専門分野の知識、先端技術やスキルを学び、これらの知識や技術を総合的に活用して、最終的には問題を解決したり、新しい価値を創造したりして、実践的な応用力を身につけていきます。

最後は、学位授与の方針（ディプロマポリシー）です。各学部、学科に4年間を学し、それぞれの学部や学科の教育理念や教育目標に沿って設定し

た所定の科目等を履修し、学士の卒業試験に合格することが学位授与の要件です。そのため各学部、学科が求める教養科目と専門科目等の修得と、コミュニケーション能力、論理的な思考力、分析・評価能力、問題解決力を身につけているかどうかを学士の卒業試験に合格する基準となります。これらの6つの能力は学修の成果（ラーニングアウトカムズ）として定められており、4年間で修得する能力です。大学院についてもアドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーが同様に定められています。

さて、東京工科大学は創設以降著しく発展してきました。本学が所属する片柳学園は、テレビ関連技術者、コンピュータ技術者などの工学分野から芸能分野の人材までの広範な人材育成に大変な実績のある専門学校であり、まさに産業界の人材ニーズを先取りする形で発展してきたと言えると思います。

1986年の本学創立の時は日本の産業界はまだ発展期にあり、産業界の要請で八王子市の片倉町に工学部を作りました。次に、初めは新し

メディアと呼ばれましたが、新しいメディア時代の幕開けが予測され、この時代に必要の人材を養成するためメディア学部を設立し、大成功しました。さらに、工学部を発展的に改組して、高度情報化社会に対応できる情報通信技術者を養成する目的でコンピュータサイエンス学部を、生命科学とバイオテクノロジーを応用した新しい産業を支える技術者の教育を目的にバイオニクス学部（後の応用生物学部）を作りました。

2010年にはこ蒲田キャンパスに進出し、高度先進医療に貢献できる人材育成のための医療保健学部と、実践的なデザイン能力を身につけた人材を育成する目的でデザイン学部を作りました。

そして2015年、21世紀で期待されているサステナブル社会の実現に貢献するエンジニアを育成する工学部を八王子キャンパスに設立致しました。こうして現在は6学部、教養学環と大学院を持つ理工系総合大学に発展しております。

本学の6つの学部及び大学院で共通しているのは、コンピュータ教育です。実は、本学園は日

本で初めて本格的にコンピュータ教育を始めた学園として知られています。6学部共通でコンピュータが必修となっており、コンピュータを活用した教育に積極的に取り組んでいます。

皆様は Moodle と呼ばれる教育システムを用いた授業をすぐに体験することになります。この Moodle 以外にも新しい教育方法を5年以上前から積極的に取り入れています。

その一つが、アクティブラーニングと呼ばれる教育方法です。解りやすく言えば学習者を中心にした双方向の授業や実習、演習で、教員は学習者が理解しているかどうかを確認しながら授業を行います。

特に PBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）と呼ばれる高度なアクティブラーニングは、教育効果を上げるために有効な方法です。例えば PBL はコンピテンシーと呼ばれる能力をつけるのに活用されています。コンピテンシーとは「職務や役割における優れた行動に結果的に結びつく個人特性」のことです。わが国が参加している経済開発協力機構（OECD）は企業にとって3つのキーコンピテンシー能力を持っている人材が必要だと言っています。第

一は言語、数理、情報コミュニケーション技術のスキルを使いこなすことができる人材です。第二は他人と円滑な人間関係を構築できる能力です。第三は社会の中で自分が果たすべき役割を認識して行動できる自律的で主体的な能力です。コンピテンシーは本学のラーニングアウトカムズにも取り上げられています。企業の採用試験でも重視されるようになっていきます。

本学の6学部と教養学環は、21世紀のサステナブル社会の実現に貢献する人材を育てることを共通の目的としてきました。特に、新しい工学部を設立した時にはサステナブルエンジニアリングを提唱し、これを専門とする人材の育成を目標に掲げてきました。サステナブル社会とは、内閣府が第5期科学技術基本計画で目指すべき未来社会として述べているソサエティー 5.0 と重なると思います。サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立するという人間中心の社会です。

ソサエティー 1.0 は狩猟社会、ソサエティー 2.0

は農耕社会、ソサエティー 3.0 は工業社会、ソサエティー 4.0 は情報社会でした。現在の情報社会では知識や情報が共有されず、分野横断的な連携が不十分であると言われています。

しかし、ソサエティー 5.0 では IoT、人工知能（AI）やロボットで全ての人とモノがつながり、いろいろな知識や情報が共有され、今までにない新たな価値を生み出して、課題や問題を解決できると考えています。

すでに本学では人工知能研究会を設置して全学部で人工知能の研究・応用に取り組んでいます。この人工知能を使えば、必要な情報が必要な時に取り出せたり、あらゆる情報（ビッグデータ）を活用したロボットや自動走行車などの技術で少子高齢化や地方の過疎化という問題が克服できる日が来るかもしれません。このためにはイノベーションが不可欠です。皆様はこの担い手として、本学を卒業後は社会で活躍することが期待されているのです。

さて、イギリス・ロンドンビジネススクールのリンダ・グラットン教授によるベストセラー「LIFE SHIFT」「WORK SHIFT」が大変注目されています。これを受けて安倍首相はグラットン教授をメンバーに迎えた「人生100年時代構想会議」を立ち上げ、これに備えようとしています。本日入学された皆様の大部分は100歳以上まで生きることになるので、これまでとは人生設計が変わってくると思います。60歳あるいは65歳で定年を

迎え、あとはハッピーリタイヤという訳にはいかなくなるでしょう。もしかすると、80歳くらいまでは働かなければならないかもしれません。オックスフォード大学のオズボーン准教授は、現在の職業の約半分は、今後10～20年でAIによって代わられると予想しています。そうすると、これから皆様は生きていく過程で2～3回の転職を考えることになるかもしれません。そのためには、リカレント教育を受けて新しい分野に挑戦することが必要になると思います。

リカレント教育とは、スウェーデンの経済学者であるレーンが提唱した生涯教育のことです。経済協力開発機構（OECD）が取り上げて注目されるようになりました。リカレントとは反復や回帰という意味で、急速に変化する社会で生きていくためには生涯に亘って再教育を受ける必要があると思います。そのためには、大学で幅広い分野の基礎知識を修得することをお勧めします。これは2000年代にアメリカで始まった教育モデルで、STEM教育と言われていますが、Science、Technology、Engineering、Mathematicsの4つから構成されています。本学ではこのSTEM教育を積極的に行っていますので、力を入れて取り組んでほしいと思っています。

大学に入学したら学ばなければならないことが多くありますので、時間を上手に使う習慣を身につけて下さい。全ての人に1日24時間が与えられていますが、これを計画的に使うかどうかで人生が大きく変わってきます。授業、実習、演習などを理解するためには予習をすることが大切です。配布され

た「シラバス・講義概要」に詳しく授業等の内容が書かれていますので、参考にしてください。大学では授業だけではなく、実験や演習を通して覚える知識や技術・スキルが多いので、何事にも好奇心（興味）を持って臨んでほしいと思います。

授業の、実験、演習、実習、サークル活動など、勉学と学生生活の時間を効率的にマネジメントすることによって、これからの4年間で皆様はそれぞれ見違えるように成長すると思います。

色々な話を致しましたが、これをもって入学式の式辞とさせていただきます。本日は入学誠にありがとうございます。

平成30年4月4日
東京工科大学学長
軽部 征夫

大学事務局便



「学内合同企業セミナーを開催」

3月5日～9日の5日間、八王子キャンパスの厚生棟において約600社の企業採用担当者をお招きして、学部3年生（八王子・蒲田両キャンパス）および大学院修士1年生対象の『学内合同企業セミナー』を開催し、延べ約2,800名の学生が参加しました。今年度も企業の採用意欲は依然として高く、参加した学生も会社概要やエントリー方法などを真剣に聴いておりました。また、今回は初めての試みとして、開催初日に工学部のオープン実習を受け入れていただいた企業約90社に特化した日を設定し、会社概要等をご説明いただきました。



「八王子近隣地域学内合同企業説明会を開催」

6月12日に八王子キャンパスの厚生棟において、約40社の企業採用担当者をお招きして、『八王子近隣地域学内合同企業説明会』を開催しました。本説明会は日本工学院八王子専門学校との共同企画で、地元企業への就職を視野に入れている学生を対象に毎年開催しております。地元企業で地域に貢献したい学生が両校合わせて約90名参加し、企業採用担当者からは自社の概要やエントリー方法、地元で働くことの意義などをお話いただきました。



「その他の主な就職関連行事（八王子キャンパス）」

日程	行事内容
4月20日（金）	学内個別企業説明会（東京ガス株式会社）
4月25日（水）	学内個別企業説明会（日本マイクロソフト株式会社）
5月17日（木）	新卒応援ハローワークガイダンス
5月23日（水）	学内ミニ合同企業説明会（クリエイティブ系企業）
	学内ミニ合同企業説明会（有力企業）
5月28日（月）	新卒応援ハローワークガイダンス
5月30日（水）	学内ミニ合同企業説明会（有力企業）
6月14日（木）	100社求人マッチング会
6月20日（水）	学内合同企業説明会（東京都情報産業協会会員企業／IT系）
6月21日（木）	新卒応援ハローワークガイダンス
6月22日（金）	学内個別企業説明会（WDB株式会社エウレカ社）
6月26日（火）	学内ミニ合同企業説明会（日本包装機械工業会会員企業）
6月27日（水）	学内企業説明会（大手パートナー企業）
	学内個別企業説明会（株式会社サティス製薬）
7月3日（火）	100社求人マッチング会
7月6日（金）	新卒応援ハローワークガイダンス
7月13日（金）	学内個別企業説明会（鈴茂器工株式会社）
	学内個別企業説明会（ホーチキ株式会社）
8月1日（水）	学内個別企業説明会（中央システム株式会社）
8月2日（木）	学内個別企業説明会（WDB株式会社エウレカ社）

「保護者説明会で全体就職説明会を開催（蒲田キャンパス）」

今年も4月21日に学内保護者説明会が開催されました。蒲田キャンパスでは教員との個別面談、就職個別面談の他にキャリアサポートセンターによる学部毎の全体就職説明会を実施しました。年々参加いただく保護者の方が増えているとともに、この全体就職説明会のみにご参加いただく保護者も増えてきました。

今年は、各学部2回の就職説明会に合わせて約200名の保護者にご出席いただき、就職への関心の高さや進路に対するご心配が伺える状況でした。デザイン学部は主に3年次保護者を対象に卒業生の状況や採用試験の早期化、それに伴うインターンシップからの就職活動の重要性について説明しました。医療保健学部は主に4年次保護者を対象に卒業生の状況、医療職養成大学の増加による就職環境の変化や学科ごとに異なる就職活動について説明いたしました。全体説明会終了後も個別に多くのご相談をいただきました。



「平成30年度後期学内行事予定」

行事予定	日程
授業開始、祝日授業開講★	9月17日(月)
祝日授業開講★	9月24日(月)
履修登録期間	9月24日(月)～27日(木)
履修登録確認・修正	9月28日(金)
紅華祭(学園祭)	10月7日(日)～8日(月)
紅華祭に伴う準備および後片付けのため、全学部・全学年の開講科目について、10月6日(土)、9日(火)を休講とする	
八王子 秋期保護者会 (一部対象者のみ、個別面談)	10月7日(日)
補講★	11月10日(土)
祝日授業開講★	11月23日(金)
後期末試験時間割発表	12月中旬
冬期休業	12月25日(火)～1月4日(金)
授業開講予備日★ (自然災害等で休講となった場合の振替日)	1月17日(木)
補講★	1月18日(金)
授業終了	1月21日(月)
後期末試験	1月22日(火)～31日(木) (最終日は予備日)
卒業論文審査日	2月上旬
再試験	2月20日(水)～26日(火)
成績表(後期)交付	3月中旬
学位記授与式	3月20日(水)
編入生(新入生)ガイダンス	3月22日(金)
在学生ガイダンス、健康診断	3月25日(月)～28日(木)

★:要注意(土曜日・祝日開講または振替授業実施日)

行事予定	日程
授業開始	9月10日(月)
後期科目履修修正期間	9月10日(月)～14日(金)
祝日授業開講★	9月24日(月)
医療保健学部卒業研究発表会	9月中旬～10月中旬(予定)
祝日授業開講★	10月8日(月)
秋期保護者会 (一部対象者のみ、個別面談)	10月13日(土)
かまた祭(学園祭)	10月27日(土)～28日(日)
かまた祭に伴う準備および後片付けのため、全学部・全学年の開講科目について、10月26日(金)、29日(月)、30日(火)を休講とする	
蒲田 祝日授業開講★	11月23日(金)
後期末試験時間割発表	12月上旬
月曜日振替授業	12月25日(火)
授業開講予備日★ (自然災害等で休講となった場合の振替日)	12月26日(水)～27日(木)
冬期休業	12月28日(金)～1月6日(日)
補講	1月9日(水)～10日(木)
授業終了	1月11日(金)
後期末試験	1月15日(火)～23日(水)
後期再試験	2月1日(金)～6日(水)
デザイン学部卒業制作展	2月1日(金)～4日(月)
成績表(後期)交付	3月中旬
学位記授与式	3月20日(水)
在学生ガイダンス・健康診断・就職関連行事等	3月22日(金)～29日(金)

★:要注意(土曜日・祝日開講または振替授業実施日)

「平成30年度 学園祭日程」

紅華祭(八王子キャンパス)

日時:平成30年10月7日(日)～8日(月)
 場所:東京工科大学 八王子キャンパス
 住所:東京都八王子市片倉町1404-1
 交通:JR八王子みなみ野駅・JR八王子駅南口より
 スクールバスをご利用ください。

かまた祭(蒲田キャンパス)

日時:平成30年10月27日(土)～28日(日)
 場所:東京工科大学 蒲田キャンパス
 住所:東京都大田区西蒲田5-23-22
 交通:JR京浜東北線・東急池上線・東急多摩川線
 「蒲田」駅西口から徒歩2分





人事（採用、任命、昇格、定年、組織改廃、退職）

平成30年2月1日（人命第0001018号）～平成30年6月7日（人命第0001034号）までを掲載。

1. 採用

平成30年2月1日付

職位	所属	氏名
助教	応用生物学部	中西 昭仁 岡田 麻衣子

平成30年4月1日付

職位	所属	氏名
教授	応用生物学部	野嶽 勇一
	医療保健学部臨床工学科	柴崎 芳一
	医療保健学部臨床検査学科	櫻井 進
准教授	応用生物学部	笠井 智成
	コンピュータサイエンス学部	森本 千佳子
講師	メディア学部	安原 広和
	医療保健学部看護学科	新山 真奈美
	コンピュータサイエンス学部	金光 永煥
	メディア学部	藤崎 実 森川 美幸 伊藤 彰教
	片柳研究所	安藤 公彦
	医療保健学部看護学科	望月 良美
	医療保健学部理学療法学科	日下 さと美
	教養学環	佐藤 宏樹
	メディア学部	兼松 祥央
	医療保健学部看護学科	一色 喜保
医療保健学部作業療法学科	大野 勘太	
助手	工学部応用化学科	入谷 康平
	医療保健学部看護学科	飯塚 敏子 上田 皓平
	医療保健学部臨床検査学科	國枝 泰希
実験助手	コンピュータサイエンス学部	今 海斗
事務職員	八王子キャンパス業務課	田崎 彩香
	八王子キャンパス学務課	山田 茉彩
	キャリアサポートセンター	笹澤 梨奈

平成30年5月1日付

職位	所属	氏名
講師	工学部	大神 光江

2-1. 任命（教員）

平成30年4月1日付

命	所属	氏名
医療保健学部理学療法学科長 医療保健学部長補佐	医療保健学部 理学療法学科 教授	中山 孝
学長補佐、片柳研究所長	片柳研究所 教授	香川 豊
医療保健学部臨床検査学科、 応用生物学部兼務	医療保健学部 臨床検査学科 教授	佐々木 聡
教養学環、応用生物学部兼務	教養学環 准教授	加柴 美里
大学院コンピュータサイエンス専攻 博士後期課程及び修士課程担当	コンピュータサイエンス 学部 講師	金光 永煥
大学院メディアサイエンス専攻 博士後期課程担当	メディア学部 准教授	太田 高志 羽田 久一
	応用生物学部 教授	野嶽 勇一
大学院バイオニクス専攻 修士課程担当	応用生物学部 准教授	笠井 智成
	応用生物学部 助教	岡田 麻衣子 中西 昭仁
大学院アントレプレナー専攻 修士課程担当	コンピュータサイエンス 学部 准教授	森本 千佳子
大学院メディアサイエンス専攻 修士課程担当	メディア学部 講師	藤崎 実 森川 美幸
	工学部機械工学科 教授	芝池 成人
工学部機械工学科勤務、 コンピュータサイエンス学部兼務	工学部機械工学科 教授	余 錦華
	工学部機械工学科 准教授	古井 光明
	工学部機械工学科 講師	三田 俊裕 関口 暁宣

平成30年4月1日付

命	所属	氏名		
工学部電気電子工学科勤務、 コンピュータサイエンス学部兼務	工学部 電気電子工学科 教授	茂庭 昌弘 木村 康男 新海 健 鶴岡 誠 前田 就彦 黒川 弘章		
		工学部 電気電子工学科 准教授	坪川 宏	
		工学部電気電子工学科勤務、 メディア学部兼務	工学部 電気電子工学科 准教授	天野 直紀
		工学部応用化学科勤務、 コンピュータサイエンス学部兼務	工学部応用化学科 教授	山下 俊
		工学部応用化学科勤務、 メディア学部兼務	工学部応用化学科 教授	江頭 靖幸
工学部応用化学科勤務、 応用生物学部兼務	工学部応用化学科 教授	原 賢二		

平成30年6月1日付

命	所属	氏名
学長補佐	医療保健学部 看護学科 教授	澁谷 恵子

2-2. 任命（職員）

平成30年4月1日付

命	氏名
研究協力課課長補佐（課長事務取扱）	大和 佳介
八王子キャンパス学務課係長	内野 隆博 菊池 直美 佐野 知宏 佐藤 裕志
情報サービス課（蒲田キャンパス担当）勤務	風間 凌
学長室勤務	田中 祐輔
事務局次長 （八王子キャンパス業務課、研究協力課、情報サービス課担当）	

平成30年5月21日付

命	氏名
情報サービス課課長補佐（蒲田キャンパス担当）	鈴木 茂典

3. 昇格

平成30年4月1日付

職位	所属	氏名
教授	メディア学部	松永 信介 菊池 司 竹島 由里子
	工学部電気電子工学科	黒川 弘章
	医療保健学部臨床検査学科	栗原 由利子
	デザイン学部	松村 誠一郎
	教養学環	クリスファ・ ポール・ブロッグバノ
准教授	コンピュータサイエンス学部	井上 亮文
	工学部機械工学科	大久保 友雅
	工学部応用化学科	森本 樹
	医療保健学部臨床工学科 教養学環	日向 奈恵 加用 一者

4. 定年

平成30年4月1日付

命	所属	氏名
事務嘱託職員	八王子キャンパス業務課	野口 和晴

5. 組織改廃

平成30年4月1日付

新
日本工学院専門学校図書館を大学事務局情報サービス課に統合

6. 退職

平成 30 年 1 月 16 日

所 属	氏 名
応用生物学部 教授	山本 順寛

平成 30 年 3 月 31 日

所 属	氏 名
応用生物学部 教授	高柳 勉
コンピュータサイエンス学部教授	木下 俊之
	三田地 成幸
	渡辺 正浩
	澤谷 由里子
メディア学部 教授	宇佐美 亘
	上林 憲行
	相川 清明
医療保健学部看護学科 教授	根岸 貴子
医療保健学部臨床工学科 教授	森崎 隆幸
医療保健学部理学療法学科 教授	高橋 哲也
医療保健学部臨床検査学科 教授	後藤 正男
デザイン学部 教授	石塚 昭彦
教養学環 教授	酒井 優子
	スティーブ・ウイト`ウ`
メディア学部 准教授	岸本 好弘

所 属	氏 名
医療保健学部看護学科 准教授	吉武 久美子
教養学環 准教授	飯田 朱美
工学部 講師	安村 朗子
医療保健学部看護学科 講師	太田 祐子
応用生物学部 助教	中川 香奈子
メディア学部 助教	長谷川 大
メディア学部 助教	寺岡 文博
工学部応用化学科 助教	松山 直人
片柳研究所 助教	安藤 公彦
医療保健学部看護学科 助教	武本 亜紀
	山口 真理
	井口 紗織
	望月 良美
医療保健学部臨床検査学科 助教	岸井 こずゑ
医療保健学部理学療法学科 助教	日下 さと美
医療保健学部作業療法学科 助教	石川 進一
コンピュータサイエンス学部 実験助手	井川 勇介
事務職員 (八王子キャンパス学務課)	久保田 静
事務職員 (八王子キャンパス学務課)	山下 雅子
事務職員 (キャリアサポートセンター)	佐藤 典明

動物実験・遺伝子組換え実験実施状況

1. 動物実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的	実験動物種
第 A17BS-004 号	応用生物学部	試料が発毛に与える影響の解析	動物組織から抽出され加工されたプラセンタエキスと糖鎖、及び化学合成ペプチドの試料について、これらが実験動物の発毛や皮膚状態に与える影響を調べる。これにより、脱毛症・多毛症や皮膚疾病の治療や改善に有効な医薬品や化粧品原料の開発に役立つ成果を得ることを目的とする。	マウス (76 匹) H33 年 3 月実施分まで
第 A18BS-001 号	応用生物学部	食品由来成分の非アルコール性肝炎に対する効果検証	ライ麦由来アルキルレゾルシノール (ARs) について、ブドウ種子由来レスベラトロールを陽性対照として肝炎に対する予防、治療効果を評価する。この評価により、ARs の機能性食品としての有用性を検証する。	マウス (24 匹) H31 年 3 月実施分まで

2. 遺伝子組換え実験実施状況

承認番号	実施学部	実験課題	実験目的
第 17BS-005 号	応用生物学部	植物イソベンケイ由来フェノール化合物生合成系遺伝子の微生物・緑藻類における発現	緑藻 <i>Chlamydomonas</i> sp. は高い増殖能を有し、かつ二酸化炭素や有機体窒素について高い資化能を有する種が多いことから、高付加価値な有用物質の高生産を目指した研究で注目を集めている。そこで本研究では、自然界から有用物質を高生産できる緑藻種や微生物コンソーシアムの単離、また <i>Chlamydomonas</i> sp. の糖や油脂の代謝系の遺伝子改変株の創生によって有用物質の高生産系の構築を行う。
第 18BS-001 号	応用生物学部	医薬品実験 (大腸菌による緑色蛍光タンパク質 [GFP] と GST 融合ヒト顆粒球コロニー刺激因子 [GST-G-CSF] の発現)	大腸菌を用いた遺伝子組換え技術によるタンパク質生産を学ぶ。
第 18HS-002 号	医療保健学部	ナイーブ T 細胞と記憶 T 細胞において発現が異なる遺伝子群の HIV 潜伏化への関与について	HIV は活性化記憶 T 細胞に感染すると大量にウイルスを産生するが、ナイーブ T 細胞では潜伏化しやすい。そこで、記憶 T 細胞と比較してナイーブ T 細胞で強く発現するヒト cDNA 遺伝子を発現ベクターに組み込み、T 細胞における HIV 感染過程への影響を検証する。
第 18HS-003 号	医療保健学部	抗菌・抗凝固ペプチド大量発現系の構築	抗菌性ペプチド、血液凝固阻害ペプチドの大量発現系を構築することを目的とする。

外部研究費関連 (科研費・受託研究費・共同研究費・奨学寄付金・その他)

1. 科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金 (新規)

研究種目	研究代表者名	研究課題名
新学術領域 (研究領域提案型)	原 賢二 (工学部応用化学科 教授)	固体表面上における金属錯体の精密固定化による高機能化触媒の創製
基盤研究 (B) (一般)	暮沢 剛巳 (デザイン学部 教授)	万国博覧会に見る「日本」— 芸術・メディアの視点による国際比較
基盤研究 (C) (一般)	宇田 隆哉 (コンピュータサイエンス学部 講師)	機械学習による誤りが引き起こす情報セキュリティ問題に関する研究
	遠藤 泰志 (応用生物学部 教授)	水晶振動子マイクロバランス法による食用油脂の品質評価
	香川 豊 (片柳研究所 教授)	酸化物系耐環境コーティングの SiC/SiC 基材からの耐剥離特性の定量評価技術
	木村 康男 (工学部機械工学科 教授)	陽極酸化自立膜型集積化高感度ガスセンサ
	日下 さと美 (医療保健学部理学療法学科 講師)	高齢者にとって疲労の少ない水運搬方法の探索と新たな非常用給水袋などの開発
	柴田 千尋 (コンピュータサイエンス学部 講師)	深層学習における内部状態の統計的手法による表現と新しい学習手法の構築

1. 科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金（新規）

研究種目	研究代表者名	研究課題名
基盤研究（C）（一般）	濫谷 恵子（医療保健学部看護学科 教授）	男子看護学生の看護技術教育プログラム開発
	染谷 奈々子（医療保健学部看護学科 助教）	医療的ケアを必要とする子どもと家族への高度実践看護ケアガイドラインの開発
	十島 純子（医療保健学部理学療法学科 教授）	GPCRの細胞内輸送による活性調節機構の解明
	山本 貴子（医療保健学部看護学科 助手）	病院に勤めるプリセプターのアサーティブネスが及ぼすバーンアウトとの関連要因
若手研究	井口 理（医療保健学部看護学科 講師）	都市部における「互助」の概念明確化と評価尺度の開発
	亀田 貴寛（医療保健学部臨床検査学科 助教）	臨床検査への応用を目指した高比重リポ蛋白の新たな機能測定法の開発
	筒井 裕文（応用生物学部 助教）	抗菌薬存在下で機能を発揮できるアンモニア酸化細菌に関する知見のライブラリ構築
	鶴田 直也（メディア学部 助教）	見立て遊びを通じたデザイン支援と良い形の自動生成に関する研究

2. 科学研究費補助金及び学術研究助成基金助成金（継続）

研究種目	研究代表者名	研究課題名
基盤研究（A）（海外学術調査）	江頭 靖幸（工学部応用化学学科 教授）	耐塩性蒸気促進樹種と耕作放棄農地を利用した塩害・湛水害対策用の植林システムの構築
基盤研究（B）（一般）	稲葉 竹俊（教養学環 教授）	大規模学習データの分析・可視化と介入機能を有する知的PBL学習環境の運用と評価
基盤研究（C）（一般）	安藤 公彦（片柳研究所 講師）	ディープラーニングを用いた教育ビッグデータ解析による要ケア学生の早期抽出の実践
	石畑 宏明（コンピュータサイエンス学部 教授）	コンピュータエンジニアリング系科目を対象にしたアジャイル講義環境の研究
	井上 亮文（コンピュータサイエンス学部 准教授）	プレイヤーのゲーム体験を向上させる立体形状入出力インタフェースの開発と評価
	浦瀬 太郎（応用生物学部 教授）	臨床に注意を要する薬剤耐性菌・耐性遺伝子の都市用排水システムでの挙動
	榎本 みのり（医療保健学部臨床検査学科 講師）	クロノタイプ別睡眠負債解消の機能解明
	太田 高志（メディア学部 准教授）	物理的なメタファーによる複数のモバイルデバイスの連携を利用したコンテンツデザイン
	岡崎 充宏（医療保健学部臨床検査学科 教授）	環境及び院内由来薬剤耐性菌におけるMLST解析を指標とした包括的監視体制の構築
	越智 景子（メディア学部 助教）	携帯情報端末を使った吃音治療の支援と音響特徴の分析の研究
	加柴 美里（教養学環 准教授）	ミトコンドリア呼吸鎖超複合体中のコエンザイムQ10量は加齢により低下するの？
	川村 晴美（医療保健学部看護学科 講師）	急性期病院で認知症高齢者をケアする看護師の困難感のバーンアウトへの影響
	菊池 眞之（コンピュータサイエンス学部 講師）	脳の視覚情報処理機構を考慮した深層畳込みニューラルネットワークの研究
	酒井 弘美（医療保健学部作業療法学科 教授）	脳卒中片麻痺に対するスティック型簡易上肢機能訓練器の開発
	櫻井 進（医療保健学部臨床検査学科 教授）	高圧空カプセルによる心身の健康効果に関する臨床研究
	酒百 宏一（デザイン学部 教授）	地域資源を活かした新たな地域振興と芸術表現のかたち
	澤田 辰徳（医療保健学部作業療法学科 准教授）	高次脳機能・VR・実車評価の複合による認知機能障害者の多角的運動能力評価の開発
	新海 健（工学部電気電子工学科 教授）	次世代高電圧直流送電を可能にする液中アークプラズマを用いた新しい遮断器の基礎研究
	菅原 仁（医療保健学部理学療法学科 准教授）	速筋線維を標的とした短期間・低強度レジスタンストレーニング法の開発
	須磨岡 淳（工学部応用化学学科 教授）	ペプチド核酸を利用した転写因子関連タンパク質の新規解析法の開発
	高橋 昌男（工学部応用化学学科 教授）	電気化学的酸化法による次世代電子デバイスに応用可能な絶縁体薄膜低温創製法の開発
	竹島 由里子（メディア学部 教授）	微分相解析に基づく高度可視化環境の開発
	陳 淑梅（教養学環 教授）	中国語発音改善法の提案とそれに基づく発音学習システムの構築と検証
	富沢 真也（教養学環 准教授）	新しいトポロジカルブラックホール解の構成とその安定性解析
	七丈 直弘（コンピュータサイエンス学部 教授）	知識創造における不確実性：社会インパクトを高めるための多様性とは
	新山 真奈美（医療保健学部看護学科 准教授）	若年性認知症者の就労支援に関する研究
	布田 裕一（コンピュータサイエンス学部 准教授）	理論的な安全性評価が可能な耐タンパーソフトウェア技術の研究
	古井 光明（工学部機械工学科 教授）	マグネシウムパイプの曲げ半径極小化を実現するねじり・ねじり戻し加工プロセスの開発
	前田 憲寿（応用生物学部 教授）	生活素材の白斑の発生メカニズムの解明と白斑発生を予測する評価方法の構築
	松井 徹（応用生物学部 教授）	脱硫菌とPAH分解菌による芳香族縮合型複素環化合物分解マトリックス構築と環境浄化
	松永 信介（メディア学部 教授）	KABC-IIを特性因子に加味した算数困難ろう児への算術学習支援AHSの構築
	松永 真由美（工学部電気電子工学科 准教授）	クロスループ構造による零位相分散特性の実現と偏波・周波数が変化するアンテナ開発
	三上 あかね（医療保健学部臨床検査学科 講師）	細胞内多標的分子計測技術の開発及びこれを用いた糖化の腫瘍細胞へ及ぼす影響の解析
	三上 浩司（メディア学部 教授）	広視野角VRゲームコンテンツのための注視範囲を考慮したゲームアクションデザイン
森 陽子（医療保健学部看護学科 助教）	新人訪問看護師への新人教育と職務継続との関連に関する縦断的研究	
森本 千佳子（コンピュータサイエンス学部 准教授）	ICTプロジェクトの開発プロセスとチーム形成段階の関係に関する研究	
矢野 和義（応用生物学部 教授）	ナノ積層構造を有した機能性バイオチップによる高感度バイオセンシング法の開発	
吉田 亘（応用生物学部 講師）	1細胞メチル化DNA検出法の開発と血中循環腫瘍細胞の簡易検出法への展開	
加藤 輝（応用生物学部 教授）	酸化剤を用いたDNAメチル化率のピンポイント解析法の開発	
挑戦的研究（萌芽）	宇井 彩子（応用生物学部 准教授）	クロマチン構造を介した転写とDSB修復の共役のメカニズムの解明

研究種目	研究代表者名	研究課題名
挑戦的萌芽研究	西尾 和之 (工学部応用化学学科 教授)	濡れの制御にもとづく接着・剥離繰り返し界面の構築
	野澤 美江子 (医療保健学部看護学科 教授)	現代社会が求める生殖看護にかかわる看護師のコンピテンシーモデルの創生
若手研究 (B)	相田 沙織 (コンピュータサイエンス学部 助教)	3次元立体視空間における数量判断過程の心理物理・脳科学的解明
	上野 聡 (工学部応用化学学科 講師)	脂肪族カルボニル誘導体におけるβ位炭素-水素結合の不飽和結合への付加反応
	大木 正隆 (医療保健学部看護学科 准教授)	訪問看護師の夜間・休日オンコールが自己効力感、多職種・多施設連携に与える効果
	奥橋 佑基 (医療保健学部臨床検査学科 助教)	Notchシグナルによる白血病細胞増殖機構の解明
	加納 徹 (メディア学部 助教)	金属デバイスの非破壊精密検査を目的とした多軸X線CTの開発
	飛山 義憲 (医療保健学部理学療法学科 講師)	人工膝関節置換術により骨量は変化するか?
	伏見 卓恭 (コンピュータサイエンス学部 助教)	要点と評価を軸とした評価文書可視化に関する研究
特別研究員奨励費 (外国人)	余 錦華 (工学部機械工学科 教授)	劣駆動機械システムの先進制御設計 複雑かつ繰り返しの産業プロセスに適用可能なモデリングとその制御手法に関する研究
	福島 E. 文彦 (工学部機械工学科 教授)	磁気軸受の高効率化と振動除去を目指したロバスト制御系の構築

3. 受託研究費

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
井上 亮文 (コンピュータサイエンス学部 准教授)	IoT ネットワークに関する調査研究	H29. 6. 1 ~ H30. 5. 31	日本プロセス (株)
今井 伸二郎 (応用生物学部 教授)	帝人 (株) から提供される大麦試料を用いた、機能的栄養成分の定量、定性分析及びその機能性の評価	H29. 7. 6 ~ H31. 3. 31	帝人 (株)
岡田 麻衣子 (応用生物学部 助教)	核内ホルモン受容体リガンドを利用した難治性C型肝炎及び脂肪性肝炎制御戦略の構築	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構
山下 俊 (工学部応用化学学科 教授)	オムツなど衛生用品の最適設計	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31	(株) ラオパン
	高耐熱・絶縁材用の、粘土・樹脂のコンポジットに供する高耐熱樹脂 (ポリイミド等) の製法研究	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31	住友精化 (株)

その他 2 件

4. 共同研究費

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
稲葉 竹俊 (教養学環 教授) 柴田 千尋 (コンピュータサイエンス学部 講師) 安藤 公彦 (片柳研究所 講師)	シナリオベースの AI チャットシステムを実現するための技術・技法の開発と評価	H30. 5. 10 ~ H31. 5. 9	Fxcoin (株)
	多様なスタイルの業務報告文から帳票を生成するためのモデルの構築	H30. 6. 1 ~ H30. 12. 1	(株) ビズオーシャン
	muragon 等における AI (人工知能) 的アプローチ	H29. 12. 1 ~ H30. 5. 1	(株) ムラウチドットコム
杉山 友康 (応用生物学部 教授)	コンクリートの 6 価クロム抑制方法に関する研究	H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31	初野建材 (株)
高木 茂行 (工学部電気電子工学科 教授)	蓄電池の特性評価と回路モデリングに関する研究	H29. 10. 1 ~ H30. 9. 30	東芝マテリアル (株)
松永 真由美 (工学部電気電子工学科 准教授)	近接した発電用風車によるおたかどや山送信アンテナの VSWR の簡易的実験に基づく変化の考察	H30. 5. 21 ~ H31. 3. 31	会津電力 (株)
	1GHz ~ 3GHz 近傍の内臓型基板アンテナの開発に関する研究	H30. 6. 1 ~ H31. 5. 31	三省電機 (株)

その他 10 件

5. 奨学寄附金

研究者名	企業 (団体)
天野 直紀 (工学部電気電子工学科 准教授)	(公財) トランスコスモス財団
大久保 友雅 (工学部機械工学科 准教授)	(公財) 東電記念財団
加納 徹 (メディア学部 助教)	(株) プリジストン
菅原 仁 (医療保健学部理学療法学科 准教授)	花王 (株) パーソナルヘルスケア研究所
高木 茂行 (工学部電気電子工学科 教授)	(株) テックスイージー
西尾 和之 (工学部応用化学学科 教授)	(公財) 軽金属奨学会
西野 智彦 (応用生物学部 准教授)	日東電化工業 (株)
野嶽 勇一 (応用生物学部 教授)	(株) itsubo
吉田 亘 (応用生物学部 講師)	(公財) 飯島藤十郎記念食品科学振興財団
	(公財) 日本応用酵素協会

6. その他

研究者名	研究テーマ	期間	企業 (団体)
香川 豊 (片柳研究所 教授)	プロセス・設計基礎技術開発	H29. 4. 1 ~ H31. 3. 31	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (SIP)
	コーティング機能設計技術	H29. 4. 1 ~ H32. 3. 31	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (ALCA)
七丈 直弘 (コンピュータサイエンス学部 教授)	投資活動における霧則と AI 利用のための適切な政策・制度設計	H29. 10. 1 ~ H31. 3. 31	国立研究開発法人 科学技術振興機構 (社会技術研究開発)
高木 茂行 (工学部電気電子工学科 教授)	QCL 素子の高温安定動作に向けた熱解析・放熱構造の作製技術	H29. 11. 17 ~ H34. 3. 31	国立研究開発法人 物質 材料研究機構
山下 俊 (工学部応用化学学科 教授)	地域リグニン資源が先導するバイオマス利用システムの技術革新	H30. 4. 1 ~ H31. 3. 31	国立研究開発法人 森林総合研究所 (SIP/ リグニン)
	新規絶縁用樹脂とナノコンポジット化の研究開発	H29. 9. 1 ~ H32. 3. 31	住友精化 (株) (NEDO プロジェクト)

学 事

1. 平成 29 年度学部卒業生・大学院修了者数

学 部	人数	
応 用 生 物 学 部	279	
コンピュータサイエンス学部	502	
メ デ ィ ア 学 部	439	
医 療 保 健 学 部	看護学科	107
	臨床工学科	76
	理学療法学科	47
	作業療法学科	82
	臨床検査学科	82
デ ザ イ ン 学 部	165	
学 部 計	1779	
大学院バイオ・情報メディア研究科	人数	
バ イ オ ニ ク ス 専 攻	45	
コンピュータサイエンス専攻	29	
メディアサイエンス専攻	21	
アントレプレナー専攻	12	
研 究 科 計	107	
合 計	1886	

2. 平成 29 年度就職状況

学 部	希望者	就職者	就職率	大学院進学	
応 用 生 物 学 部	234	225	96.2%	40	
コンピュータサイエンス学部	470	456	97.0%	16	
メ デ ィ ア 学 部	401	374	93.3%	18	
医 療 保 健 学 部	看護学科	103	101	98.1%	2
	臨床工学科	81	70	86.4%	0
	理学療法学科	73	68	93.2%	0
	作業療法学科	47	44	93.6%	0
	臨床検査学科	69	62	90.0%	5
デ ザ イ ン 学 部	155	145	93.6%	1	
学 部 計	1633	1545	94.6%	82	
大学院バイオ・情報メディア研究科	希望者	就職者	就職率	大学院進学	
バ イ オ ニ ク ス 専 攻	40	40	100.0%	1	
コンピュータサイエンス専攻	22	22	100.0%	3	
メディアサイエンス専攻	13	13	100.0%	0	
アントレプレナー専攻	2	2	100.0%	0	
研 究 科 計	107	107	100.0%	4	
合 計	1740	1622	93.2%	86	

3. 博士学位授与

氏 名	学 位	論 文 名	指導教員
飯田 沙也加	課程 博士 (工学)	生体中の一重項酵素や次亜塩素酸生成のプロープ分子としての尿酸	藤沢 章雄 准教授
バイ ダーニャ	課程 博士 (工学)	G-quadruplex structures as transcriptional regulators in Dele and Cdc6 CpG islands, and as targets for DNA methylation detection. (Dele と Cdc6 グアニン四重鎖構造を介した転写制御機構の解析とグアニン四重鎖構造を利用したメチル化 DNA 検出法の開発)	軽部 征夫 教授
細木 淳	課程 博士 (工学)	[ピペラジン環骨格を有する新規キナーゼ阻害剤のモノアミノオキシダーゼ B 及びアルデヒドオキシダーゼによる代謝	今村 亨 教授
濱口 総志	課程 博士 (工学)	公開鍵基盤に基づくトラストサービスの日米欧間比較と相互承認の研究	木下 俊之 教授
茂木 龍太	課程 博士 (工学)	キャラクターの形式化によるデザイン原案制作手法に関する研究	近藤 邦雄 教授
永瀬 翠	論文 博士 (工学)	Methods for evaluating in vivo oxidative stress and damage: Application of centenarians and patients with post-cardiac arrest J syndrome and amyotrophic lateral sclerosis	藤沢 章雄 准教授

4. 平成 31 年度入学者選抜日程表

試験日	合格発表日	学部・学科	入試区分
6月24日(日)	6月29日(金)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部*、デザイン学部 *工学部は2年次編入のみ	・編入学指定校推薦(専門学校)
9月22日(土)	10月12日(金)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部	・A O 入試
9月29日(土)		デザイン学部、医療保健学部 看護学科、作業療法学科	
9月30日(日)		医療保健学部 臨床工学科、理学療法学科、臨床検査学科	
11月11日(日)	11月26日(月)	応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部(工学部は2年次編入のみ)	・編入学一般選抜 ・編入学指定校推薦 <工学部・応用生物学部を除く>(高等専門学校)
11月17日(土)	11月26日(月)	デザイン学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校)
11月18日(日)		医療保健学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校)
11月18日(日)		応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部	・指定校推薦(高等学校・専門学校) ・外国人留学生試験<工学部を除く> ・外国人留学生指定校推薦(附属日本語学校) <工学部を除く>
1月29日(火)	2月1日(金)	全学部	・奨学生入試
1月19日(土) 1月20日(日)	2月19日(火)	全学部	・センター利用試験前期 注:本学での個別学力試験は実施しない
2月7日(木) 2月8日(金) 2月9日(土) 2月10日(日)		全学部	・一般入試A日程
1月19日(土) 1月20日(日)		応用生物学部、コンピュータサイエンス学部 メディア学部、工学部、デザイン学部	・センター利用試験後期 注:本学での個別学力試験は実施しない
3月4日(月)		3月14日(木)	全学部

5. 予算・決算

1. 平成 29 年度決算

単位：円

① 資金収支計算書

科目		金額
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,724,966,650
	手数料収入	298,970,640
	寄付金収入	64,446,417
	補助金収入	378,676,929
	資産売却収入	232,500,000
	付随事業・収益事業収入	562,640,318
	受取利息・配当金収入	169,581
	雑収入	282,992,656
	借入金等収入	0
	前受金収入	3,295,658,300
	その他の収入	183,431,552
	資金収入調整勘定	△ 3,476,929,623
	前年度繰越支払資金	64,003,926,733
	収入の部合計	77,551,450,153
支出の部	人件費支出	4,750,613,024
	教育研究経費支出	1,995,283,956
	管理経費支出	1,503,969,475
	借入金等返済支出	0
	借入金等返済支出	0
	施設関係支	279,308,170
	設備関係支	312,676,131
	資産運用支	0
	その他の支	427,760,368
	資金支出調整勘定	△ 900,495,671
	翌年度繰越支払資金	69,182,334,700
	支出の部合計	77,551,450,153

2. 平成 30 年度予算

① 資金収支予算書

科目		金額
収入の部	学生生徒等納付金収入	11,392,924,000
	手数料収入	268,121,000
	寄付金収入	24,000,000
	補助金収入	397,492,000
	資産売却収入	39,000,000
	付随事業・収益事業収入	529,247,000
	受取利息・配当金収入	179,000
	雑収入	172,384,000
	借入金等収入	0
	前受金収入	3,397,575,000
	その他の収入	158,521,023
	資金収入調整勘定	△ 3,295,658,300
	前年度繰越支払資金	69,182,334,700
	収入の部合計	82,266,119,423
支出の部	人件費支出	4,783,927,000
	教育研究経費支出	2,034,015,000
	管理経費支出	1,531,164,000
	借入金等返済支出	0
	借入金等返済支出	0
	施設関係支	436,840,000
	設備関係支	397,898,000
	資産運用支	0
	その他の支	852,334,065
	予備費	0
	資金支出調整勘定	△ 427,957,139
	翌年度繰越支払資金	72,657,898,497
	支出の部合計	82,266,119,423

② 事業活動収支計算書

科目		金額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	11,724,966,650
		手数料収入	298,970,640
		寄付金収入	64,446,417
		経常費等補助金	378,676,929
		随事業収入	562,640,318
		雑収入	282,992,656
		教育活動収入計	13,312,693,610
	事業活動支出の部	教育研究経費	4,822,683,091
		管理経費	3,542,564,540
		徴収不能額等	1,792,774,564
		教育活動外支出計	1,639,000
		教育活動収支差額	10,159,661,195
		受取利息・配当金	3,153,032,415
		その他の教育活動外収入計	169,581
教育活動外収支	事業活動収入の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外支出計	0
	事業活動支出の部	教育活動外収支差額	169,581
		経常収支差額	3,153,201,996
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入計	152,760,293
	事業活動支出の部	資産処分差額	27,578,547
		その他の特別支出計	0
		特別収支差額	125,181,746
基本金組入前当年度収支差額	3,278,383,742		
基本金組入額合計	0		
当年度収支差額	3,278,383,742		
前年度繰越収支差額	14,711,018,630		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	17,989,402,372		

事業活動収入計	13,465,623,484
事業活動支出計	10,187,239,742

② 事業活動収支予算書

科目		金額	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	11,392,924,000
		手数料収入	268,121,000
		寄付金収入	24,000,000
		経常費等補助金	397,492,000
		随事業収入	529,247,000
		雑収入	172,384,000
		教育活動収入計	12,784,168,000
	事業活動支出の部	教育研究経費	4,878,927,000
		管理経費	3,316,897,000
		徴収不能額等	1,739,228,000
		教育活動外支出計	0
		教育活動外支出差額	9,935,052,000
		教育活動収支差額	2,849,116,000
		受取利息・配当金	179,000
教育活動外収支	事業活動収入の部	借入金等利息	0
		その他の教育活動外収入計	179,000
	事業活動支出の部	教育活動外支出計	0
		教育活動外収支差額	179,000
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0
		その他の特別収入計	0
	事業活動支出の部	資産処分差額	0
		その他の特別支出計	0
		特別収支差額	0
予備費	0		
基本金組入前当年度収支差額	2,849,295,000		
基本金組入額合計	△ 807,527,000		
当年度収支差額	2,041,768,000		
前年度繰越収支差額	17,989,402,372		
基本金取崩額	0		
翌年度繰越収支差額	20,031,170,372		

事業活動収入計	12,784,347,000
事業活動支出計	9,935,052,000

発行月 平成30年8月
発行 学校法人片柳学園 東京工科大学

■八王子キャンパス
〒192-0982 東京都八王子市片倉町1404-1
☎042-637-2111(代)
✉jm-hcsyomu@stf.teu.ac.jp

■蒲田キャンパス
〒144-8535 東京都大田区西蒲田5-23-22
☎03-6424-2111(代)
✉jm-kmsyomu@stf.teu.ac.jp

編集 東京工科大学情報公開委員会
東京工科大学事務局業務課

制作 東京工科大学事務局業務課

写真提供 恵雅堂出版株式会社



東京工科大学



—編集後記—

平成30年7月豪雨災害により、亡くなられた方に慎んで哀悼の意を表しますとともに、今もお不安と混乱の中で生活することを余儀なくされている方々の御心情をお察しするとともに、心よりお見舞い申し上げます。

今回、豪雨災害における連日の報道を見てすぐに行動に移したことが1つあった。それは、「ハザードマップ」だ。

ハザードマップとは、自然災害による被害を予測し、その被害範囲を地図化したもので、災害の発生地点、被害の拡大範囲、被害程度、避難経路、避難場所などの情報が既存の地図上に示されているもので、国土交通省をはじめ、各自治体等がホームページなどで掲載しており、インターネットで検索をするとすぐにでるので、ぜひ一度確認をしてみてください。地図上に重ねられた「洪水」「土砂災害」「津波」などの情報を見ると、自宅、大学や職場、通いなれたいつもの道が、思いもよらない被害想定地域となっていることがあり、驚くこともあるに違いない。

被害に巻き込まれることが予想される事態に直面しても、都合の悪い情報を見過ごすなど「自分だけは大丈夫」と思い込んでしまい、小さな出来事に過剰反応せず心の安定を図る作用を「正常性バイアス（思い込み）」という。

豪雨や地震、猛暑など世界中で起きている異常現象がいつ身近かなところで起きるかは誰にも予測できない。

情報過多の時代に生きる私達に求められるメディアリテラシーというのは、情報の質を見極めて、「ハザードマップ」のような災害時の情報を的確に事前入手し、正常性バイアスによって思考や判断を誤らない効果的な行動をすることにより、自分や家族、友人らへの被害を最小限に抑える準備をすることではないだろうか。